

大阪市立自然史博物館館報

28

(平成14年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成16年3月31日発行

目 次

展 覧 事 業	1
調 査 研 究 事 業	8
資 料 収 集 保 管 事 業	17
普 及 教 育 事 業	27
科 学 系 博 物 館 教 育 機 能 活 用 推 進 事 業	38
デ ジ タ ル ミ ュ ー ジ ア ム の 推 進 事 業	39
庶 務	40

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。平成13年4月に「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」がオープンしたことで、常設展示は、旧来の博物館建物（本館と呼称）だけでなく、情報センター1階にも増設され、特別展示は情報センター2階のネイチャーホールで開催されることとなった。

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーによって、組み立てられている。

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

館外においては、市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

I. 常設展

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、従来本館普及センターに開設されていた学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所にも設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

本館入口のオリエンテーション・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、

私たち人間が、どのように自然とかがわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示して

第1展示室「大阪の自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。そして第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示し、その自然を、未来にも残さねばならないことを訴えて、締めくくりとしている。

情報センター開設に引き続いて、本館の展示更新が計画されていたが、諸般の事情により、実行に至っていない。「大阪の自然誌」展示室の展示内容は、本館の展示更新と一体の計画で進められたため、現状ではその一部が本館展示室の内容と重複しており、早急な対策を必要としている。

平成14年度には、下記の展示の更改・補修等を行った。

■展示室全般

●館内サイン用パネル枠ならびにパネルスタンド購入

情報センター開設に伴い、観覧者には展示室の配置がわかりづらくなっているため、その現状を改善するため、サインを増やす必要があり、パネル枠ならびにパネルスタンドを購入した。

■第3展示室

●深海魚展示用アクリルケース更新

昭和60年に実施した展示更新時に作成されたアクリル製ケースが老朽化したので、これを更新した（ラブカのケースは除く）。

II. 特別展

(1) 当館が主催する特別展

第30回特別展「世界の蝶と甲虫—岡村宏—コレクション展—」

前年度から年度をまたがって開催。内容については館報27号（平成13年度）を参照。

●会 期 平成14年3月16日（土）～5月12日（日）

展 覧 事 業

第31特別展「化石からたどる植物の進化 一陸に上がった植物のあゆみ」

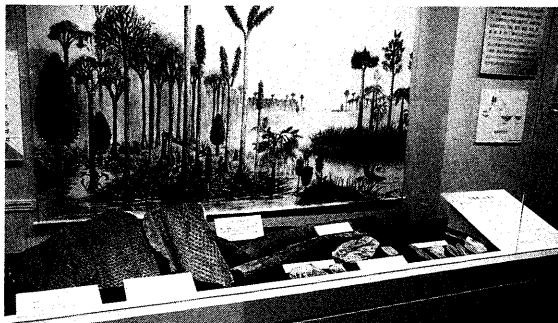
陸上植物は約5億年前に水中から陸上へ進出し、緑豊かな地球環境をつくりだしてきた。地球の誕生は46億年前であるので、約40億年は緑のない地球であり、植物が5億年の歴史を通して、今日の地球環境を作り上げてきたと言える。しかし、人類は猛烈な勢いで地球環境を変えてきた。市民のみなさんに、地球環境をつくりだした植物の進化の重みを化石からたどっていただき、地球環境について考えていただく機会とする特別展を企画した。

- 期 間 平成14年7月6日(土)～9月1日(日)
- 会 場 自然史博物館ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター2階)
- 主 催 大阪市教育委員会・大阪市立自然史博物館
- 観 覧 料 大人400円、高校・大学生300円。団体割引あり。本館は別料金。中学生以下、障害者、大阪市内在住の65歳以上は無料。

● 展示内容

- 1 植物化石のいろいろ
- 2 多様な陸上植物
- 3 水中から陸上へ 一植物の上陸
- 4 地球最初の森
- 5 たねをつけた最初の植物
- 6 裸子植物の繁栄
- 7 被子植物の誕生と繁栄
- 8 陸上植物のめぐみ
- 9 実演コーナー 植物化石のクリーニング
- 10 生きている化石植物の生品展示

展示標本点数 約500点



● 関連行事

普及講演会「陸に上がった植物のあゆみ」

私たちの身近にある植物はどのような進化の道をたどって現在にいたったのかを、植物化石と現生植物の最近の研究をふまえて、陸上植物の起源と進化について講演していただいた。

日 時：7月21日(日)午後1時～午後4時

演題・講師：

「植物は陸に上がった後どうしたか」

加藤雅啓氏(東京大学教授)

「化石の果実はおいしかったか」

西田治文氏(中央大学教授)

会 場：自然史博物館講堂

参加者：126名

自然史講座

「原始的被子植物はなぜ雌性先熟なのか 一中生代の花と昆虫」

日 時：7月20日(土・祝)午後3時～4時30分

講 師：岡本素治(植物研究室)

会 場：本館集会室

参加者：46名

「東アジアの植生の移り変わり 一白亜紀から現在まで」

日 時：8月10日(土)午後3時～4時30分

講 師：塚腰 実(地史研究室)

会 場：本館集会室

参加者：55名

室内実習「現在の植物からたどる植物の進化」

日 時：8月4日(日)午前10時～午後4時

場 所：長居植物園と新館実習室

参加者：19名



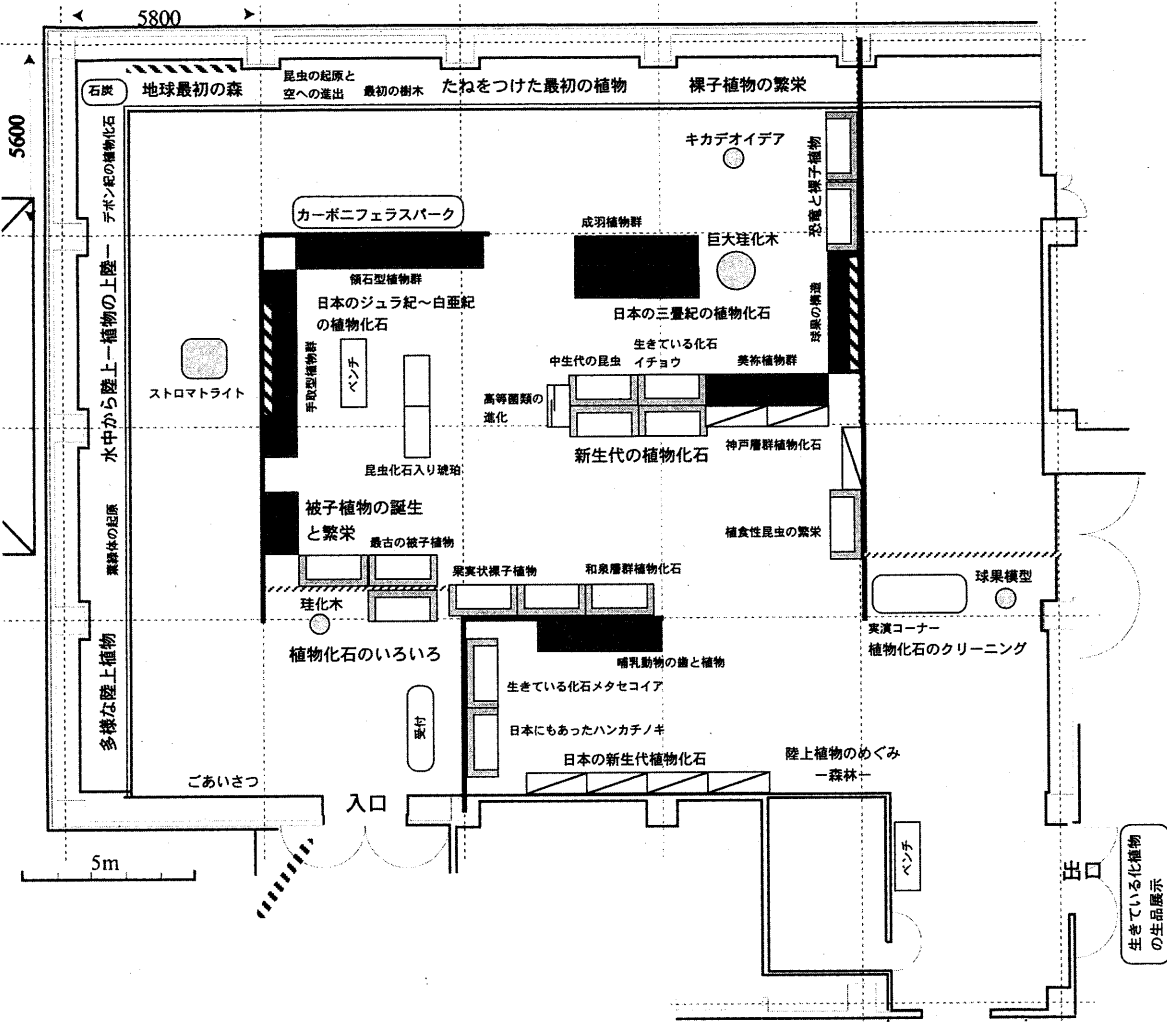


図 1. 特別展「化石からたどる直物の進化 —陸に上がった植物のあゆみ—」配置図

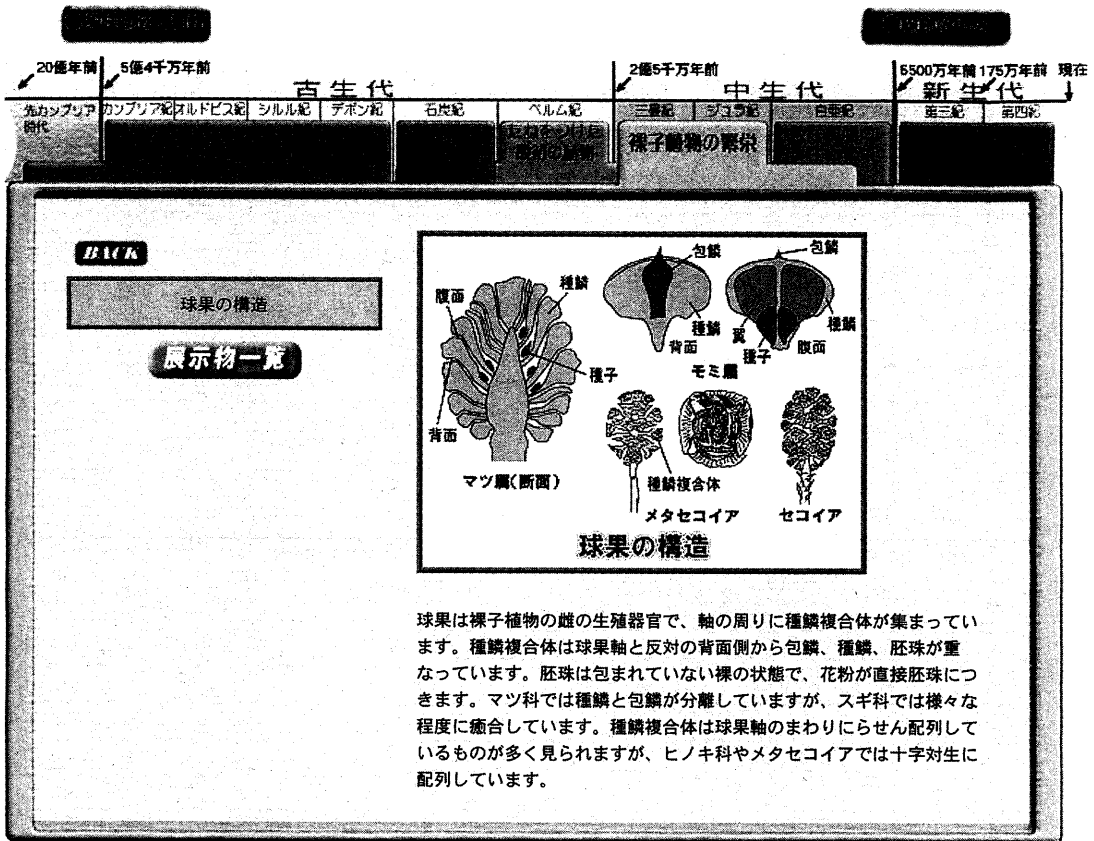


図2. インターネットで公開されている特別展「化石からたどる植物の進化」

● 出版物・ホームページ

・第31回特別展展示解説書「化石からたどる植物の進化 一陸に上がった植物のあゆみ」40ページ、口絵1-4を出版した。

・ホームページで展示内容を紹介し、会期後もインターネット上で内容を閲覧できるよう、大阪市デジタルミュージアム事業により、下記のページを作成した。

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2002/plantevo/virtual/index.html>

(2) 当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

特別展「目で見える『がん』展～診断、治療の最前線～」

本展では、国立がんセンターや大阪府立成人病センター、大阪市立大学医学部などの協力により、「がん」の仕組みから、治療の現状、その未来までを映像とパネルで紹介した。

また、内視鏡や映像の中から「がん」を探し出す「画像診断体験システム」など、実際に触ったり、操作を体験できる疑似体験装置などを展示し、「がん」についての理解を深めることによって、市民ががんについての正確な知識を身につけ、そのような先入観を払拭して今後の健康生活に役立ててもらうことを最大の目的として開催した。

● 会 期 平成14年9月14日(土)～11月4日(日)

● 会 場 自然史博物館ネイチャーホール

● 主 催 大阪市立自然史博物館、大阪市教育委員会、読売新聞大阪本社、読売テレビ

● 後 援 厚生労働省、大阪市、大阪府、日本医師会、大阪府医師会、日本看護協会、日本赤十字社大阪府支部、健康保険組合連合会大阪連合会、大阪成人病予防協会

● 協 賛 アメリカンファミリー生命保険会社、アストラゼネカ株式会社、ダイワボウ情報シス

テム株式会社

- **特別協力** 国立がんセンター、大阪府立成人病センター、大阪市立総合医療センター、大阪市立大学医学部
- **観 覧 料** 大人700円（500円）、高校生・大学生500円（300円）。カッコ内は前売り及び30人以上の団体料金。中学生以下、障害者の方、大阪市内在住の65歳以上は無料。

● **展示内容**

1. がんとは何か

がんについての総論部分であり、各種データで「がん」の現状を知るとともに、「がん」がどのような病気なのかを解説する。「がん」発生のメカニズムや浸潤、転移の仕組み、現在一般に行われている診断、治療緩和ケアの現状など、映像とパネルでわかりやすく紹介。

2. 部位別診断、治療の現状

全身を14ヶ所の部位別に分け、その最新の診断、治療法を映像とパネルで紹介する。また、映像の中からがんを探し出す「画像診断体験システム」や、腹腔鏡手術の原理を知ってもらうための「擬似体験装置」、乳がんのしこり状のものを埋め込んだ「乳房の触診モデル」など、来場者が実際に触ったり操作を体験できる装置を展示する。

3. 近未来の診断、治療／予防

近い将来、実用化が予想される診断や治療法の展望、予防法について映像とパネルで詳しく解説する。

● **関連行事**

講演会（いずれも当館講堂で開催）

第1回9月21日（土）13：00～15：00

「肝がん」

第2回10月5日（土）13：00～15：30

「肺がん／最新の治療法」

第3回10月12日（土）13：00～15：30

「がんの予防と最新治療」

第4回10月19日（土）13：00～15：00

「消化管がん治療の最前線」

第5回10月26日（土）13：00～15：00

「前立腺がん」

Ⅲ. 特別陳列

■ 「朝鮮半島と日本列島の自然」

5月31日より長居スタジアムなどで開催された2002 FIFA ワールドカップ™ 韓国・日本大会の会期にあわせ、特別陳列「朝鮮半島と日本列島の自然」を開催した。韓国と日本それぞれの文化を育んだ自然を理解していくことで隣りあう両国の交流を深めていくことを目的としたものである。

特別陳列では、当館が長年にわたって収集し、また寄贈をいただいた昆虫や植物、化石や岩石などの実物標本や写真を用い、朝鮮半島と日本列島のつながりを示すものを中心に展示した。

また、本市の学芸員等が行っている共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」について、(財)大阪市文化財協会・大阪歴史博物館・大阪市立科学館の協力で、その成果の一端を紹介した。

● **期 間**：平成14年5月18日（土）から6月30日（日）

● **場 所**：本館2階特別展示室

● **主な展示内容**

・ 「韓国の森、日本の森」

韓国・日本に共通するアカマツ林やコナラ林、西南日本に広く広がる照葉樹林、日本の湿潤な冷温帯に成立するブナ林、大陸から韓国に広がるが日本には分布しないモンゴリナラ林など、両国の森林自然環境を相違点を中心に解説。

・ 「朝鮮半島の生き物」

昆虫を中心に動物や植物など、日本の関連する種とともに標本で展示

・ 「つながったり、はなれたり」

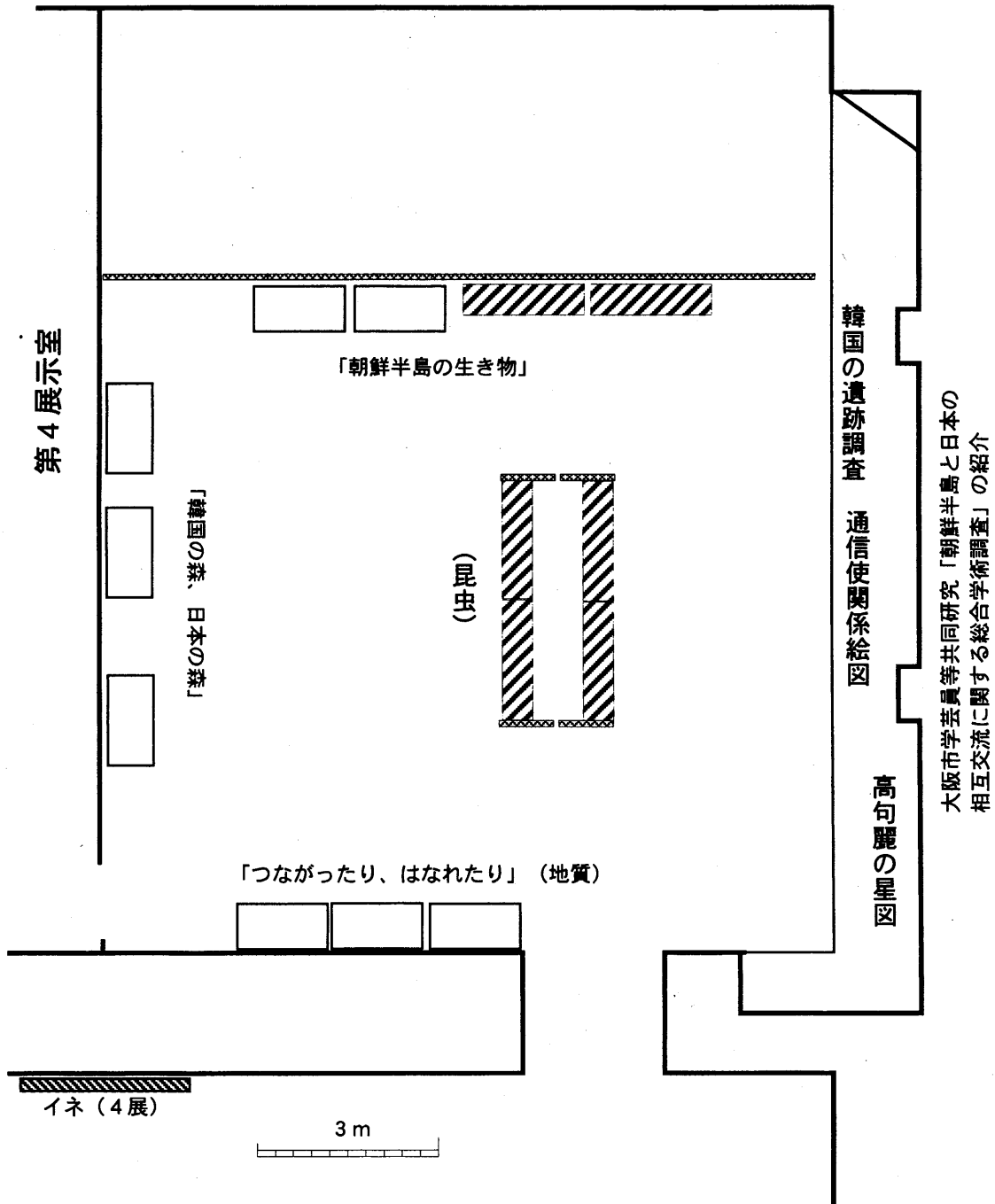
両国の地質を中心に、対馬海峡や日本海の変遷など、両地域の生物相に大きな影響を与えた地史的背景を解説

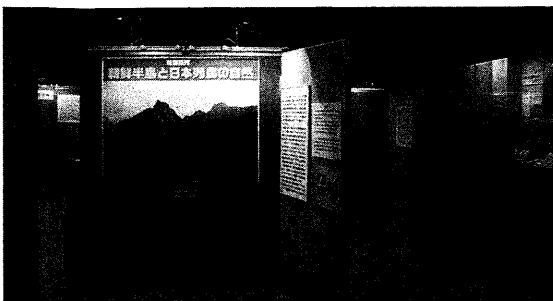
・ 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」の研究成果の一端として、韓国内における考古遺跡発掘調査の様子や、江戸時代の鎖国政策のもとで唯一日本を訪れた公式の外交使節団であった「朝鮮通信使」関連の資料などを展示した。

● **展示した標本点数**

岩石・鉱物・化石	38点	植 物	15点
動 物	42点	昆 虫	1,008点
考古・歴史	36点	合 計	1,139点

2002年特別陳列 韓国の自然 配置図





IV. 館外での展示

館外での展示 本年度はなし。

V. 展示関係の出版物・リーフレット・ビデオ

■常設展解説書

- ミニガイド No.20 「大阪の樹木 2 社寺林の木 ツバキ科, ヤブコウジ科」
一般市民向け, A5 縦版, 本文20ページ, 平成15年3月発行, 300円。

■特別展解説書

- 第31回特別展「化石からたどる植物の進化—陸に上がった植物のあゆみ—」解説書
一般市民向け, B5 縦版, 本文40ページ, カラー図版4ページ, 平成14年7月6日発行, 700円。

VI. 「自然史探検すくらっちクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。問題のカードは10種類用意し、各5問となっている。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

- 関連行事：会期中の自然史講座を、特別陳列に関連したテーマで実施した。

■自然史講座

1. 「韓国の地質」

講 師：川端清司（地史研究室）

日 時：5月18日（土）午後3時～4時30分

2. 「韓国の初期農耕遺跡の地層」

講 師：石井陽子（第四紀研究室）

日 時：6月15日（土）午後3時～4時30分

会 場：自然史博物館本館集会室

- 会期中の本館展示室の入館者数：14,140人

調査研究事業

当館の四つの事業(展覧・調査研究・資料収集保管・普及教育)に、学芸課に所属する学芸員それぞれが、等しく取り組んでいる。これらの四事業を別々のものとしてではなく、互いに関連したものにするためには、その根底に調査研究が位置づけられなければならない。本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるからである。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 那須孝悌 (Takayoshi Nasu)

動物 山西良平 (Ryohei Yamanishi) 学芸課長代理
研究室 波戸岡清峰 (Kiyotaka Hatooka) 学芸員
和田 岳 (Takeshi Wada) 学芸員

昆虫 金沢 至 (Itaru Kanazawa) 主任学芸員
研究室 初宿成彦 (Shigehiko Shiyake) 学芸員
松本吏樹郎 (Rikio Matsumoto) 学芸員

植物 岡本素治 (Motoharu Okamoto) 学芸課長
研究室 藤井伸二 (Shinji Fujii) 主任学芸員
佐久間大輔 (Daisuke Sakuma) 学芸員

地史 樽野博幸 (Hiroyuki Taruno) 研究主幹
研究室 川端清司 (Kiyoshi Kawabata) 主任学芸員
塚腰 実 (Minoru Tsukagoshi) 学芸員

第四紀 石井久夫 (Hisao Ishii) 主任学芸員
研究室 石井陽子 (Yoko Ishii) 学芸員
中条武司 (Takeshi Nakajo) 学芸員

平成15年3月31日現在

II. 個別調査研究

■那須孝悌 (館長)

- (1) 長野県野尻湖周辺における後期更新世・完新世の古植生変遷に関する研究 (野尻湖花粉グループの一員として)
- (2) 新潟県馬高遺跡周辺における縄文時代の古植生に関する研究

- (3) 韓国慶尚南道サルレ遺跡および琴川里遺跡の花粉分析 (朝鮮半島総合学術調査団初期農耕研究グループの一員として)

■山西良平 (動物研究室)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 日本の干潟の多毛類フォーナの調
- (3) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査

■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾、瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 大阪府下の果実食性鳥類と果実との関係についての研究

■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) アメンボの翅型と越冬の研究
- (5) トガリアメンボの分布拡大の調査

■初宿成彦 (昆虫研究室)

- (1) ハナノミ科甲虫類の分類学的研究
- (2) 新生代の昆虫化石 (遺跡の昆虫遺体を含む) の研究 (千歳市, 長野県信濃町野尻湖)
- (3) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査 (ハムシ科, テントウムシ科, ヒラズゲンセイなど)
- (4) クマゼミの生活史の解明
- (5) 朝鮮半島のヤマトタマムシに関する調査

■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性, 分類, 系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 特定宿主における捕食寄生者相の調査 (材穿孔性昆虫, ミノガ, ミノウスバ, スジツガ)
- (4) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■岡本素治 (植物研究室)

- (1) 種子植物の生殖戦略の比較研究
- (2) 3倍体ヤブガラシの起源の研究
- (3) ネジレモのねじれた葉の起源と適応的意義
- (4) 被子植物の起源と系統に関するレビュー

■藤井伸二（植物研究室）

- (1) 西スマトラ地域におけるブナ科植物の分類
- (2) 琵琶湖および周辺域のフロラと植物地理
- (3) 近畿地方における保護上重要な植物に関する研究
(レッドデータブック近畿研究会の一員として)
- (4) シーボルト植物コレクションの調査

- (3) 大規模噴火に伴う再堆積性火山砕屑物に関する研究
- (4) 沿岸域の微地形発達と堆積作用に関する研究
- (5) 大和川水系の水質や環境に関する研究

III. 研究業績の公表

■当館より発行された刊行物

*は館外研究者。[No.] は当館業績番号

大阪市立自然史博物館研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

●第56号 2002年12月25日 52 ページ

小郷一三*：豊潮丸1999年調査航海で得られた南西諸島産ウミユリ類 (ウミユリ綱). 1-44. [No. 375]

[英文]

金沢 至・山本博子*・中谷憲一*：近畿地方都市部におけるオオミノガの現状 (昆虫綱：鱗翅目). [No. 376] [英文]

●第57号 2003年3月31日 45 ページ

波戸岡清峰：琉球列島から得られたウツボ科魚類の1新種 (ウナギ目：ウツボ科). 1-9. [No. 377] [英文]

林 成多*・初宿成彦：大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本：特に希少種および絶滅危惧種について. 11-20. [No. 378]

河上康子*：大阪市住之江区・南港野鳥園の干潟環境における甲虫目昆虫類相-2000年~2002年の調査結果一. 21-27. [No. 379]

藤井伸二：オニバス (スイレン科) の結実と繁殖サイズに関するノート. 29-32. [No. 380] [英文]

木村全邦*・瀬戸 剛*：Bryoxiphium norvegicum (蘚類：エビゴケ科), モーリシャスで見つかる. 33-37. [No. 381] [英文]

林 成多*・初宿成彦・宮武頼夫*・岩井大輔*：大阪市・長居公園の地下の更新統から産出した昆虫化石, 特にネクイハムシ類3種について (鞘翅目：ハムシ科). 39-45. [No. 382] [英文]

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行の Nature Study 誌は, ns. と略記した. 同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は, 表紙を記事の一部とみなしてページを付し, シリーズ名は省略した. 当館学芸員以外の著者には氏名に*を付した.

■佐久間大輔（植物研究室）

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究.
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究.
- (3) 二次林植物群集の研究.
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制.
- (5) 博物館情報システムの構築

■樽野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科 (長鼻類) の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における, 鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と, 生層序区分に関する研究
- (3) 中国産長鼻類に関する研究
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放射散虫化石に関する研究
- (3) 南アルプスの四万十帯・白亜系の構造発達史に関する研究
- (4) 現生放射散虫に関する研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) 陸上植物の起源と進化

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究 (野尻湖貝類グループの一員として)
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) デルタ成・浅海成堆積物の堆積過程に関する研究
- (2) 陸域における堆積物重力流の分化過程に関する研究

【館長】

那須孝悌 (2002. 10) 完新世の古環境変遷と初期農耕の諸問題. 韓日合同シンポジウム推進委員会 (韓国側) 編「韓日合同シンポジウムおよび現地検討会 韓日初期農耕比較研究」(大阪市学芸員等共同研究韓半島総合学術調査団発行): 7-33.

那須孝悌 (野尻湖花粉グループ本郷美佐緒ほか11名と共著) (2003. 3) 下部野尻湖層Ⅲおよび中部野尻湖層Ⅰ・Ⅱにおける花粉粒の堆積過程. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (11): 97-110.

【動物研究室】

山西良平 (2002. 12) 海辺の似たものどうしーイシダタミガイのなかまー. ns. 48 (12): 133-134.

山西良平 (2003. 3) 楽しいカニ釣り. ns. 49 (3): 27-28, 36.

山西良平 (2003. 3) ハクセンシオマネキのいる矢倉海岸～注目される神崎川左岸の干潟～. Libella (71): 4-5. あおぞら財団発行

山西良平 (2003. 3) 博物館のある社会「大阪湾海岸生物研究会」. Musa (博物館学芸員過程年報) (17): 1-4. 追手門学院大学発行

Hatooka, K. (2002. 4). Fishes of Japan with pictorial keys to the species, English edition (T. Nakabo, ed.), Keys to 70 families and 470 species of Anguilliformes fishes etc. and remarks and references on these species. Tokai Univ. Press, Tokyo.

波戸岡清峰 (2002. 5) 私の自然観一魚は食べるもの一. 大阪シニア自然大学広報紙「どんぐりっこ」, (社) 大阪自然環境保全協会, 93: 1.

波戸岡清峰 (2003. 3) 学名を背おうことになった標本. ns. 49 (3): 25-26.

有山啓之・波戸岡清峰 (2003. 3) 大阪湾南部岬町沖に生息する底生魚類, 大型甲殻類および軟体動物について. 大阪府立水産試験場研究報告, (14): 37-55.

Hatooka, K. (2003. 3) A new moray eel, *Gymnothorax ryukyensis*, from the Western Pacific Ocean (Anguilliformes: Muraenidae). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., 57: 1-9.

和田 岳 (2002. 4) 大津池のサギのコロニーの移り変わり. ns. 48: 37-38.

和田 岳 (2002. 8) 鳥日記のすすめ「身近な鳥を記録しよう」. どんぐりっこ, 96: 1.

和田 岳 (2002. 9) 新しいレッドデータブックの意義と市民参加. 都市と自然, (318): 13.

和田 岳 (2002. 12) 日本における住居にすむヤモリの分布ーヤモリアンケートの結果報告ー. ns. 48: 135-137.

和田 岳 (2003. 1) キジバトの繁殖について. むくどり通信, (163): 3.

【昆虫研究室】

金沢 至 (2002. 2) アサギマダラから他の昆虫へ. 一私の自然観一. どんぐりっこ, 90 (2): 1.

金沢 至 (2002. 6) アサギマダラの海外調査ー総論にかえてー. 昆虫と自然 37 (6): 2-4.

金沢 至 (2002. 6) 新しい誘引植物・ミズヒマワリの逸出繁茂. 昆虫と自然 37 (6): 25-28.

金沢 至 (2002. 7) 渡りをするチョウ・アサギマダラ. 私たちの自然 (479): 10-13.

金沢 至 (2002. 8) 海を越える蝶 アサギマダラの旅路を追う. 地球に生きる. 緑と水の広場 (29): 2-3.

金沢 至 (2002. 9) 会員名簿データベースの公開. 昆虫ニューシリーズ 5 (3): 69.

金沢 至・鎌田直人* (2002. 9) ブナの種子食性キバガ (鱗翅目) の分類学的問題と生活史. 日本昆虫学会第62回大会 (富山) 講演要旨: 13.

金沢 至 (2002. 12) 8. 電子化推進委員会報告. 会記. 昆虫ニューシリーズ 5 (4): 176-177.

金沢 至 (2002. 12) 近畿支部. 平成14年度日本昆虫学会支部活動報告. 昆虫ニューシリーズ 5 (4): 188-189.

金沢 至・藤原直子*・鈴木友之* (2002. 12) ミズヒマワリの逸出繁茂. アサギマダラ年鑑 2001: 71-73.

Itaru Kanazawa, Hiroko Yamamoto* and Ken'ichi Nakatani* (2002. 12) Fauna of the bagworm moth, especially on *Eumeta variegata* (Snellen) in city parts of the Kinki District of Japan. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., (56): 45-52.

中谷憲一*・今給黎靖夫*・金沢 至・河合正人* (2003. 2) トガリアメンボの発見と生息環境. ns.49 (2): 15-17.

初宿成彦 (2002) 第3節 千歳市オサツ2遺跡・ユカンボシC2遺跡で産出した昆虫遺体について. ユカンボシC2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査. 千歳市文化財調査報告書27: 269-273.

初宿成彦 (2002.6) 大阪のハムシ (その2) トゲハムシ亜科. ns. 48 (6): 63-64.

初宿成彦 (2002. 6) 自然史・ハンゲル講座. ns. 48 (6):

65.

- 初宿成彦 (2002. 7) コハク (琥珀), 昆虫の起源と空への進出, 昆虫の繁栄. 第31回特別展「化石からたどる植物の進化—陸に上がった植物のあゆみ—」. 大阪市立自然史博物館.
- Hayashi, M.* and S. Shiyake (2002) Late Pliocene Donaciinae (Coleoptera, Chrysomelidae) from the Koka Formation, Kobiwako Group in Shiga Prefecture, Japan. *Elytra*, Tokyo (日本鞘翅学会) 30 (1): 207–213.
- 初宿成彦 (2002) むしやの広場. 日本甲虫学会・日本鞘翅学会の合同採集会. 月刊むし (380): 50.
- 初宿成彦・野尻湖昆虫グループ (2002) 氷河時代の糞虫化石を用いた古気候の解析. 日本昆虫学会第62回大会 (富山) 講演要旨: 21.
- 守屋成一*・初宿成彦・田中幸一* (2002) ブタクサハムシ侵入時期の推定と分布拡大の様相. 日本昆虫学会第62回大会 (富山) 講演要旨: 52.
- 守屋成一*・田中幸一*・山村光司*・清水 徹*・初宿成彦 (2002) ブタクサハムシの国内での分布拡大状況と天敵相. 関東東山病害虫研究会報 (49): 131–133.
- 初宿成彦 (2002. 11) 東アジアのナナホシテントウのなま. ns. 48 (11): 121–122.
- 初宿成彦 (2002) 氷河時代の糞虫化石を用いた古気候の解析. 日本甲虫学会2002年度年次大会・日本鞘翅学会第15回大会 (大阪) 講演要旨.
- Hayashi, M.*, S. Shiyake, Y. Miyatake* and D. Iwai* (2003) Pleistocene fossil insects from the underground of Nagai Park, Osaka City, western Japan, with description of three donaciine leaf beetles (Coleoptera: Chrysomelidae). *Bull. Osaka Mus. Nat. Hist.* (57): 39–45.
- 林 成多*・初宿成彦 (2003) 大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本: 特に希少種および絶滅危惧種について. 大阪市立自然史博物館研究報告 (57): 11–20.
- 林 成多*・初宿成彦・曾田貞滋・八木 剛 (2003) 中国山地およびその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホンザキ研究報告. (6): 1–25.
- 松本吏樹郎 (2002. 7) コガタズメバチの初期果. ns. 48 (7): 84.
- Matsumoto, R. (2002) The biology and immature stages of *Thrybius togashii* Kusigemati. (Hymenoptera: Ichneumonidae: Cryptinae) Abstracts 5th international conference of Hymenopterists. (Beijing): 51. (Poster session).
- 松本吏樹郎 (2002) 日本産クモヒメバチ群 (ヒメバチ科, フシダカヒメバチ亜科) の分類学的再検討. 日本昆虫学会第62回大会 (富山) 講演要旨: 23.
- 松本吏樹郎 (2002. 11) 滋賀県からのチャイロスズメバチの記録. ns. 48 (11): 132.
- 松本吏樹郎 (2003. 1) クモに寄生するヒメバチのはなし—クモヒメバチの生活—. ns. 49 (1): 3–6, 12.
- 松本吏樹郎 (2003. 3) 淀川鶴殿のヨシ原で捕獲されたカミツキガメ. ns. 49 (3): 29, 36.
- 【植物研究室】**
- 岡本素治 (2002. 5) ツツジ科の雄しべ. ns. 48 (5): 49–50.
- 岡本素治 (2002. 7) 被子植物の誕生と繁栄. ns. 48 (7): 75–78.
- 大阪市立自然史博物館 (編) (2002. 7) 化石からたどる植物の進化—陸に上がった植物のあゆみ—. 大阪市立自然史博物館. (藤井・岡本・佐久間分担執筆)
- 京都府 (編) (2002. 4) 京都府自然環境目録. 京都府企画環境部企画課. (藤井分担執筆)
- 藤井伸二 (2002. 5) 大阪市立自然史博物館植物標本庫 (OSA) について. 日本植物分類学会ニューズレター 5: 25–27.
- 藤井伸二 (2002. 5) 社会教育を通じた分類学の発展. 日本分類学会連合ニューズレター 1: 13–14.
- 京都府 (編) (2002. 4) 京都府自然環境目録. 京都府企画環境部企画課. (藤井分担執筆)
- 京都府 (編) (2002. 6) 京都府レッドデータブック (上巻) 野生生物編. 京都府企画環境部企画課. (藤井分担執筆)
- 藤井伸二 (2002. 8) シーボルト植物コレクション調査ノート 1 縦断囊果と斜切枝. 分類 2: 83–86.
- 藤井伸二 (2002. 9) 対馬の植物地理. ns. 48 (9): 97–98, 108.
- 藤井伸二 (2002. 9) 対馬の植物メモ. ns. 48 (9): 99–101.
- 藤井伸二 (2002. 12) 地方版レッドデータブックの成果と問題点. [種生物学会 (編) 保全と復元の生態学—野生生物を救う科学的思考]. 文一総合出版. 95–107.
- 藤井伸二 (2002. 12) 各都道府県別の植物自然史研究の現

- 状：27. 大阪府. 植物地理・分類研究 50：207-210.
- 藤井伸二 (2003. 1) 海草. ns. 49 (1)：1-2, 12.
- 藤井伸二 (2003. 2) 私のフィールドノートから 33 このごろ気になる身の回りの雑草. ns. 49 (2)：22.
- 藤井伸二 (2003. 2) シーボルト植物コレクション調査ノート 2 -伊藤圭介標本帖について-. 分類 3：53-58.
- 梅本信也*・藤井伸二 (2003. 2) 水田秋植物 (Autumn paddy ephemeral) に関する一考察. 分類 3：47-51.
- 藤井伸二 (2003. 3) ミニガイド No. 20 大阪の樹木 2 -社寺林の木ツバキ科・ヤブコウジ科. 大阪市立自然史博物館.
- Yamaguchi, T.,* S. Fujii, M. N. Tamura,* H. Nagamasu,* N. Kato,* H. Wada* and A. Yamamoto* (2003. 3) The specimens of Japanese plants collected by Ph. F. von Siebold, H. Burger and von Siebold's collaborators, and now housed in the National Herbarium of the Netherlands and Botanische Staatssammlung Munchen. Calanus Special Number 5：191-576.
- Fujii, S. (2003. 3) Notes on seed set ratio variation and reproductive plant size in *Euryale ferox* (Nymphaeaceae). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. 57：29-32.
- 佐久間大輔 (2002. 7) この山は昔どう使っていたのか 里山管理のために. どんぐりっこ, シニア自然大学
- 佐久間大輔 (2002. 10) 台場クスギをさがそう. ns. 48 (10)：111-113.
- 佐久間大輔 (2002. xx) 自然史系博物館の収蔵標本は景観を語るか? 景観生態学会要旨:
- Sakuma, D. (2002. 8) Ecology of SATOYAMA-Rural Landscape of East Asia. Proceedings of the VIII INTECOL. International Congress of Ecology, Seoul.
- 佐久間大輔 (2003. 3) 科学系博物館におけるバーチャルシステムによる展示および学習資源コンテンツの教育的利用に関する海外先進施設調査報告書. 全国科学博物館協議会
- 【地史研究室】**
- 樽野博幸 (2002. 6) ステゴドン概説. 真野勝友教授退官記念誌, 45-50.
- 樽野博幸 (2002. 6) ミズラモグラ. ns. 48 (6)：61-62.
- 川端清司 (2002. 4) アメリカ紀行-西海岸の地質と東部の博物館- (その1). ns. 48 (4)：39-42.
- 川端清司 (2002. 8) 地球の酸素はどこからきたのか? ns. 48 (8)：85-86.
- 塚腰 実他 7名 (2002. 7) 化石からたどる植物の進化-陸に上がった植物のあゆみ-. 大阪市立自然史博物館, 第31回特別展展示解説書. 40 p.
- 塚腰 実 (2002. 7) プサロニウス (木生シダ) の幹化石. ns. 48 (7)：73-74.
- 塚腰 実 (2002. 7) 化石でたどる植物の進化. 世界通信教材学習ニュース, No. 1736.
- 塚腰 実 (2002. 8) 特別展「化石からたどる植物の進化-陸に上がった植物のあゆみ」. ns. 48 (8)：87-90.
- 塚腰 実 (2002. 10) 古植物学的な植物観察. 大阪シニア・自然大学広報紙, 98：1.
- 塚腰 実・寺岡明文・山崎博史 (2002. 11) 広島県三次市に分布する塩町層から産出した大型植物化石. 日本植生史学会第17回大会講演要旨集, 42.
- 塚腰 実・寺岡明文・山崎博史 (2003. 1) 広島県三次市に分布する塩町層から産出した大型植物化石. 日本古生物学会第152回例会講演予稿集, 99.
- (平成13年度追加)
- Kawamura, Y. and Taruno, H. (2001) Late Neogene and Quaternary Terrestrial Mammal Biostratigraphy in Japan: A Revision Based on Recent Data. Program and Late Abstracts: International Symposium on the Assembly and Breakup of Rodinia and Gondwana. 28-30.
- 【第四紀研究室】**
- 石井久夫 (2002. 7) 二枚貝類ユキガイ属に見る“大陸沿岸系”とインド-西太平洋フォーナの関係. 第20回 (通算117回) 化石研究会2002年総会・学術大会講演要旨集：3.
- 石井久夫 (2002. 10) ジュニア会員のページ「チリメンユキガイの化石」. ns. 48 (10)：109-110.
- 石井久夫 (2002. 11) ササゲミミエガイ *Estellacar galactodes* (Benson) の移動様式. 第16回日本ベントス学会大会プログラム・要旨集：46.
- 石井久夫 (2002. 11) 食材の (古) 貝類学その 3 オオノガイ. ns.48 (11)：123-125.
- 石井久夫 (2003. 1) 木村蒹葭堂貝石標本. 大阪歴史博物館編「木村蒹葭堂一なにわの巨人」p.90. 思文閣出版, 京都市, 220 p.
- 石井陽子 (2002. 11) OD-5 ボーリングコアにおける大阪平野地下の更新統火山灰層序, 地球科学, 56 (6)：359-373

石井陽子 (2002. 7) 大阪平野地下の第四系火山灰層序。
シンポジウム論文集「コア精密対比による京阪神地区の
地下地質・地質構造の高精度解析」コア精密対比研究会・
日本応用地質学会関西支部。15-32.

石井陽子 (2002. 8) 大阪平野地下における中・下部更新
統の火山灰層序—OD-5 コアにもとづく再検討— (演),
日本第四紀学会講演要旨集 (32) : 118-119

Kataoka, K.* and Nakajo, T. (2002. 4) Volcaniclastic
resedimentation at multiple distal fluvial basins in-
duced by a largest explosive volcanism: the Ebisutoge-
Fukuda tephra, Plio-Pleistocene boundary, central
Japan. *Sedimentology*, 49 (2) : 319-334.

中条武司 (2002. 5) 干潟はどのようにしてできるのか。
ns.48 (5) : 51-53.

中条武司 (2002. 7) ドキドキ子ども自然史ウォッチング—
学芸員体験コース—台風漂着物を拾おう!。ns. 48 (7) :
80.

Maejima, W.*, Nakajo, T., Rajashree Das*, Pandya, K.
L.*, Tanaka, J.*, Hayashi, M.*, Mishra, B.* and Hota,
R.N.* (2002. 7) Occurrence and origin of rhythmites
of the Talchir Formation, Talchir Gondwana Basin,
Orissa, India. *SGAT bulletin (Journal of the Society
of Geoscientists and Allied Technologists)*, 3 (1) : 1-
10.

中条武司 (2002. 9) 三重県橿田川河口干潟における微地
形発達。日本地質学会第109年学術大会 (新潟) 講演要
旨 : 270.

中条武司 (2002. 11) 友の会合宿「美方高原」の報告。ns.
48 (11) : 126-128.

中条武司 (2003. 2) 地層の中に魚の骨?。ns. 49 (2) :
13-14.

阪神わかやま野尻湖地質サブグループ (2003. 3) 堆積相
と粒度分析からみた下部野尻湖層Ⅲ上部～中部野尻湖層
Ⅱの堆積環境—第14次野尻湖発掘地の例—。野尻湖ナウ
マンゾウ博物館研究報告, (11) : 23-36. (中条分担執筆)

IV. 科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

当年度は該当なし

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
20年間における熱帯雨林の 林分動態と気候変動に対する 反応 (4年間継続の2年目) (課題番号 12575006)	米田 健	藤井伸二

○10月11日～11月9日の30日間、インドネシア共和国に
出張した。

○スマトラ島において、熱帯多雨林の動態調査を行った。
○ブナ科植物の分類学的再検討のための資料収集を行っ
た。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
環境変動に対する果実の 結実フェノロジーと種子 散布者の適応戦略に関する 共同研究 (課題番号 14608022)	上田恵介	和田 岳

○近畿地方の調査研究を分担した。

V. 財団等の助成金を受けて行った研究

当年度は該当なし

VI. 海外出張・派遣 (日程順)

■大阪市学芸員等共同研究による出張

氏 名 : 那須孝悌

日 程 : 平成14年10月3日～9日

出張先 : 韓国慶尚南道大邱および蜜陽

目的及び内容 : 日韓合同シンポジウムならびに現地討論
会「日韓初期農耕の比較研究」

他の参加者 : 大庭重信 (大阪市文化財協会)

新規・継続の別及び実績 : 大阪市学芸員等共同研究は平
成13年度から継続

経費 : 大阪市学芸員等共同研究朝鮮半島総合学術調査団
出張旅費

調査研究事業

■科研費（基盤研究B）による出張

氏名：藤井伸二
日程：2002年10月11日～11月9日
出張先：インドネシア共和国
目的：「20年間における熱帯雨林の林分動態と気候変動に対する反応」の調査。詳しくは前項「基盤研究（B）」を参照。

■全国科学博物館協議会調査事業による出張

氏名：佐久間大輔
日程：2003年1月9日～19日
出張先：アメリカ自然史博物館
目的：カメイ財団の助成により全国科学博物館協議会による海外の博物館展示技術の動向視察の一環として参加した。今回の米国への海外出張は文部科学省の外郭団体である全国科学博物館協議会の調査事業として「科学系博物館におけるバーチャルシステムによる展示および学習資源コンテンツの教育的利用に関する海外施設調査」の一環として派遣されるものである。

米国における主要な博物館であるアメリカ自然史博物館・インディアナポリス子ども博物館・ボストン科学博物館のコンピュータ・インターネットを活用した展示・情報システムの開発・運用・問題点について調査し、我が国の各館への応用の可能性を探るものである。現地では広くIT技術の応用から展示企画のプロセス、館の普及・教育の方針に至るまで、現場スタッフとの意見交換を行うことができた。

視察の内容については別途全科協から視察報告集として報告済みであるので参照いただきたい。視察の成果は、現在推進中のデジタルミュージアム事業をはじめとしたホームページを通じた普及教育活動や、将来の展示更新に活用していく。

■視察日程は以下の通り。（カッコ内は非公式訪問）

1月9日 出発
11日 アメリカ自然史博物館
12日 （メトロポリタン美術館、ニューヨーク公立図書館）
13日 移動日（インディアナ州立博物館）
14日 インディアナポリス子ども博物館
15日 移動日（ボストン子ども博物館）
16日 ボストン科学博物館
（ハーバード大自然史博物館）

17日 移動日

19日 帰国

■文化庁芸術拠点形成事業による派遣

氏名：初宿成彦
日程：平成15年3月1日～3月8日
出張先：大韓民国ソウル市、水原市
目的：同国内の研究施設において、玉虫厨子の関連資料調査を行った。

VII. インターネットによる研究環境の支援

自然史博物館では平成9年度からインターネットシステムを導入し、市民への情報発信とともに研究活動に利用している。利用の形態は主にホームページの閲覧による研究情報の収集、メーリングリストを含む電子メールの利用、FTPによる外部資料の利用などである。

平成12年度末に「花と緑と自然の情報センター」の工事に伴い、システムを更新、LINUXサーバー2台、WINDOWS NTサーバー4台、Macサーバー2台（内部向けdbサーバーなどを含む）とした。インターネットシステムは「ネイチャースクエア・大阪の自然誌」のオープンに伴い、館内展示室における来館者向けの情報提供システムとしても機能し、動画コンテンツ、音声コンテンツなどとともに「自然観察地図」、「大阪の地学ガイド」、「大阪の生き物」 「絵解き検索」、「博物館案内」などが提供されている。博物館の保有する標本情報などをデータベース化する事で、市民に利用しやすいコンテンツとして加工している。将来的には書誌情報なども提供する予定である。また、インターネットでの公開は現在、回線能力や利用ガイドラインを検討中であり、将来の課題としている。これらサーバーの整備と併せ、館内のLAN、ファイアーウォールについても整備した。

さらに、平成12年度には環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会と共同でインターネット自然誌GIS「環瀬戸内いきものマップ」を整備し、平成13年度、平成14年度は大阪市デジタルミュージアム事業の一環として、整備をすすめて、特別展の内容をインターネットで閲覧できるようにした（P. 4参照）。

VIII. 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」

大阪市教育委員会が各博物館施設に所属する学芸員等の人的資源の相乗効果と活性を図り、さらに研究成果を市民還元することを目的として実施する共同研究。平成12年度より3カ年の計画で、当館をはじめ大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市文化財協会などが参加し、「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」として様々な共同研究が進行中である。当館では、サブテーマの内「旧石器時代における自然環境の変動と人類の技術の移動に関する研究」「朝鮮半島と日本列島における農耕の比較検討－自然環境との関連において－」を中心に担当している。平成14年度は那須孝悌館長が日韓合同シンポジウムならびに現地討論会を目的に韓国に出張した（P. 13 参照）。また2002 FIFA ワールドカップにあわせ、特別陳列「朝鮮半島と日本列島の自然」を開催した（P. 5 参照）。また自然史講座も韓国での地質に関するテーマで2回開催した。

IX. 外部研究者の受け入れ

平成12年度より、外部研究者の受け入れに関する要綱（P. 60）に基づき、次表のとおり外来研究員・研究生を受け入れた。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

木村全邦（平成13年度、14年度外来研究員）

田中敦司・立石幸敏・木村全邦・芦田喜治・林 正典・西村直樹、2002. 甲佐岳（熊本県）の蘚類。自然環境科学研究15: 59-69.

Kimura, M. & K. Seto (2003) *Bryoxiphium norvegicum* (Bryopsida: Bryoxiphiaceae), found in Mauritius. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. 57: 33-37.

表1. 平成12年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
上中央子	研究生	京都造形美術大学 岡田文男教授	那須孝悌
星野安治	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
本郷美紗緒	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
松江美千代	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
小林久泰	外来研究員	本人	佐久間大輔

木村全邦（2001）京都市大原周辺の蘚類採品リスト。岡山コケの会ニュース17: 7-10. 岡山コケの会。

西村直樹・畦 浩二・木村全邦（2001）コケ植物。大屋町史、自然編: 266-275, 639-651. 大屋町史編集委員会、大屋町。

木村全邦・道盛正樹・大石善隆・西平直美・立石幸敏、（2003）仁和寺庭園の蘚苔類。岡山コケの会ニュース19: 7-13. 岡山コケの会。

木村全邦（共著）（2002）京都府企画環境部環境企画課（編）京都府レッドデータブック上巻。935 p., 23 pl. 京都府企画環境部環境企画課。

木村全邦（2002）コケ植物（特に蘚類）から考える牛滝の自然。Melange 1: 9-11. きしわだ自然友の会。

木村全邦（2002）秋のコケ便り「ギンゴケ」。Melange 1: 21. きしわだ自然友の会。

木村全邦（2002）京都市の苔庭園について。第31回日本蘚苔類学会（小松市）。

菊池淳一（平成14年度外来研究員）

菊池淳一（2000. 11）樹木の生長と菌根。二井一禎・堀越孝雄編著「森林微生物生態学」朝倉書店。

Kikuchi, J. (2000. 12) The ecology and utilization of ectomycorrhizas in tropical forests in Southeast Asia. 要旨集 7th International Symposium of the Mycological Society of Japan, Tsukuba, Japan

表2. 平成13年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
荒木吉章	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	樽野博幸
上中央子	研究生	京都造形美術大学 岡田文男教授	那須孝悌
魏光颺	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	樽野博幸
星野安治	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
本郷美紗緒	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
松江美千代	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
織田二郎	外来研究員	本人	藤井伸二
木村全邦	外来研究員	本人	佐久間大輔
小郷一三	外来研究員	本人	山西良平
林 成多	外来研究員	本人	初宿成彦

調査研究事業

表3. 平成14年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
上中央子	研究生	京都造形美術大学 岡田文男教授	那須孝悌
魏光颺	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	樽野博幸
星野安治	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
本郷美紗緒	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
松江美千代	研究生	大阪市立大学理学部 熊井久雄教授	那須孝悌
小倉徹也	外来研究員	大阪市文化財協会 白木秀治事務局長	川端清司
木村全邦	外来研究員	本人	佐久間大輔
菊地淳一	外来研究員	本人	佐久間大輔
小郷一三	外来研究員	本人	山西良平
立澤史郎	外来研究員	本人	和田 岳
林 成多	外来研究員	本人	初宿成彦
渡部哲也	外来研究員	本人	山西良平

資料収集保管事業

I. 主な購入標本

■昆虫研究室

世界の甲虫 12,941点

■地史研究室

中・古生代植物化石 29点

古生代植物化石復元模型 7点

球果拡大模型 1点

鉱物 71点

II. 寄贈および交換標本

■動物研究室

有田川産大型底生動物 95点 木邑 聡美氏

岸和田市阪2区産潮間帯動物 28点 河上 康子氏

和歌山県海南市・有田市産潮間帯動物 36点 河上 康子氏

大阪府下鉱山跡の両生類 6点 浦野 信孝氏

猪名川町産カナヘビ 1点 河上 康子氏

大阪府下の両生類 8点

大阪自然環境保全協会

高槻市産シマヘビ 1点 荻野 景子氏

神戸市産ヤマカガシ 1点

寄贈採集者不明です

兵庫県・奈良県産サンショウウオ類と兵庫県産カナヘビ 3点 西川 喜朗氏

門真市産ヒル類 1点 西澤真樹子氏

ヒメドロソコエビ模式標本 5点 有山 啓之氏

奈良県河合町産淡水動物 5点 河上 康子氏

高槻市・吹田市産淡水動物 9点 河上 康子氏

各地産短尾類 29点 和田 恵次氏

串本町天子産海産動物 13点 渡部 哲也氏

岩城島周辺産海産動物 17点

大阪湾海岸生物研究会

淀川大堰産スズキ 1点 週刊釣りサンデー

大阪湾産ウチワザメ 1点 西座 真二氏

鹿児島県内之浦産スズハモ 2点 加治 俊二氏

静岡県清水沖産コンゴラアナゴ 2点 清田 雅史氏

羽曳野市産メダカ 1点 津田 滋氏

紀伊半島周辺産魚類 7点 小西 英人氏

有明海産デンベエアカシタビラム 3点 山口 勝秀氏

北摂産アマゴ 1点 浦野 信孝氏

大阪湾産ハリセンボン 1点 西座 真二氏

相模湾産ミツクリザメ 1点 瀬能 宏氏

和歌山県産ウナギ目魚類2種 2点 池田 博美氏

十津川産アマゴ 4点 近藤 公乗氏

南部町産魚類3種 3点 渡部 哲也氏

猪名川産ホトケドジョウ・伏尾町産タゴガエル 3点 松本 馨氏

浅井利勝魚類コレクション(奄美大島産) 39点 浅井 利勝氏

浜 裕夫魚類コレクション(トカラ列島産) 77点 浜 裕夫氏

大阪湾産魚類 12点 有山 啓之氏

岬町産カワアナゴ 2点 鍋島 靖信氏

大阪湾産ヒラ 1点 野元 彰人氏

相模湾産魚類3種 3点 西潟 正人氏

京阪神産淡水魚1 12点 柴田 利彦氏

京阪神産淡水魚2 10点 柴田 利彦氏

芥川産淡水魚 14点 柴田 利彦氏

鴨川産魚類2種 2点 平田 和彦氏

兵庫県産淡水魚 12点 柴田 利彦氏

日高川産淡水魚 9点 柴田 利彦氏

西日本産両生爬虫類 3点 藤本龍之介氏

石垣島産ヤモリ 1点 岸本 光樹氏

京都府産シロマダラ 1点 狩野登之助氏

和泉市産ニホンアカガエル 1点 田丸 八郎氏

高槻市産アオダイショウ 1点 杉之原専司氏

池田市産クサガメ 1点 今城香代子氏

茨木市産ウシガエル 1点 西川 喜朗氏

高槻市産ヌマガエル 1点 龍端真理子氏

大東市産ヤモリ・岡山市産ウシガエル 2点 西澤真樹子氏

篠山市産マムシ 1点 浦野 信孝氏

河内長野市産ヤモリ 1点 田中久美子氏

奈良県産両生爬虫類他 5点 田代 貢氏

西日本産両生爬虫類 13点 河上 康子氏

広島県産カエル他 4点 富永 修氏

大阪市鶴見区産ヌマガエル 3点 中谷 憲一氏

美方町産両生爬虫類 11点

大阪市立自然史博物館友の会

ユムシ・鬼頭蟹 2点 和田 恵次氏

岬町明神崎産 Upogebia 他 3点

大阪湾海岸生物研究会

資料収集保管事業

南港野鳥園産底生動物	4点	河上 康子氏	大阪市住吉区産ジュウイチ	1点	奥田 則雄氏
兵庫県高砂市加古川河口産カニ	2点	渡部 哲也氏	吉野町産オシドリ他	2点	古園 由香氏
泉大津市大津川河口産底生動物	4点	渡部 哲也氏	岬町産オシドリ他	6点	熊代 直生氏
近畿産両生爬虫類	6点	河上 康子氏	大阪市城東区産シロハラ	1点	灘本 忠功氏
東京都・岡山県・京都府産両生爬虫類	3点	西澤真樹子氏	大阪市中央区産キビタキ	1点	天川 繁利氏
河内長野市産ジムグリ	1点	小山 栄氏	能勢町産シジュウカラ	1点	三好奈保子氏
高槻市産イシガメ	1点	瀧端真理子氏	大阪市此花区産キクイタダキ	1点	石田 幸子氏
天王川産ツチガエル	1点	浦野 信孝氏	福岡県産キクイタダキ	1点	浦部美佐子氏
池田市産ヒバカリ	1点	今城香代子氏	大阪市中央区産ジョウビタキ他	1点	浦野 信孝氏
京阪神産淡水魚	26点	柴田 利彦氏	箕面市産セキセイインコ	1点	宮武 頼夫氏
微小貝(ホシノミキビ科)	8点	松村 勲氏	河内長野市産アカハラ	1点	岩崎 佳子氏
浜坂町産魚類・頭足類	9点		神戸大学産コマドリ・シロハラ	2点	小菅 桂子氏
		大阪市立自然史博物館友の会	河内長野市産シロハラ・ピンズイ	3点	岩崎 佳子氏
東シナ海産イナカウミヘビ	12点	青沼 佳方氏	大阪市平野区産シロハラ	1点	田代 貢氏
南港野鳥園産底生動物	2点	河上 康子氏	琵琶湖産コミミズク	1点	小菅 桂子氏
淡輪沖産トゲウミエラ・ウミエラカニダマン	3点	西座 真二氏	京都市産コサギ・ワニ	5点	森 哲氏
福島県小野川湖産ザリガニ	2点	三田村敏正氏	高槻市産イワツバメ	4点	瀧端真理子氏
等脚類副模式標本	24点	布村 昇氏	長居産ピンズイ	1点	竹村久美子氏
各地産無脊椎動物	29点	河上 康子氏	奈良市産ドバト	1点	菊野 肇氏
南港野鳥園産底生動物	8点	河上 康子氏	松原市産ムクドリ	1点	六車 恭子氏
北摂産魚類・両生類	25点	柴田 利彦氏	尼崎市産クイナ	1点	丸橋 寿夫氏
淡輪産トゲウヅ	1点	山本 英男氏	ボルネオ島産海岸動物	9点	渡部 哲也氏
Hediste(カワゴカイ)属模式標本他	6点	佐藤 正典氏	串本町田子産海岸動物	40点	渡部 哲也氏
芥川産淡水魚	18点	柴田 利彦氏	南部港産海産無脊椎動物	9点	渡部 哲也氏
和歌山県山海水魚	4点	山崎 公裕氏	等脚類副模式標本	56点	布村 昇氏
大阪府産陸産貝類	1999点	松村 勲氏	堺市産イカル	1点	田中多美子氏
奈良県産ツグミ	1点	山川 真義氏	吉野川産イヌ	1点	浦野 信孝氏
尼崎市産ウグイス	1点	宮原 千里氏	和歌山県広川町産哺乳類	2点	河上 康子氏
岐阜県等産哺乳類	20点	前畑 慎悟氏	長崎県峰町産シカ	1点	浦野 信孝氏
大阪市産スズメ・ヒミズ	3点	小山 栄氏	滋賀県朝日の森産シカ	1点	横山ひろき氏
大阪市中央区産メボソムシクイ	1点	吉田 咲子氏	奈良県御杖村産タヌキ	1点	
箕面市産アオバズク	1点	西村 秀美氏			下野 誠之氏・市川 顕彦氏
大阪市平野区産ヒヨドリ	1点	田代 貢氏	遠洋産アホウドリ類	15点	
堺市産ハシブトガラス他	2点		独立行政法人水産総合研究センター遠洋水産研究所		
奥田 幸男氏・奥田 幸江氏・奥田 悠太氏			和歌山県産ノウサギ	1点	花井美代子氏
津市産カルガモ	1点	奥田 幸男氏	奈良市産ハイタカ	1点	田村美美子氏
阪南市産メボソムシクイ	1点	松井 隆子氏	バブアニューギニア産スッポンモドキ	1点	西澤真樹子氏
泉佐野市産チュウジシギ	1点	佐光喜久子氏			浦野 信孝氏
			西吉野村産タヌキ	2点	奥田 幸江氏
			柏原市産ハシブトガラス	1点	河上 康子氏
			阪南2区埋立地産無脊椎動物	57点	

資料収集保管事業

兵庫県美方町産陸水生無脊椎動物	3点	市川 研太氏・古谷 菜木氏
大阪市東成区産ヒレンジャク	1点	森 真澄氏・森 廣美氏
堺市産タヌキ	1点	浦野 信孝氏
長野県産ハクビシン他	3点	宮崎 学氏・浦野 信孝氏
高石漁港産チチュウカイミドリガニ	106点	渡部 哲也氏
桜井市産トラツグミ	1点	増田 静子氏
東住吉区産イタチ	1点	大島新一郎氏
羽曳野市産オシドリ	1点	内本 梨沙氏
交野市産トラツグミ	1点	森山 春樹氏
平群町産フクロウ	1点	西澤真樹子氏
羽曳野市産イタチ	1点	松浦 哲也氏
岬町長崎海岸産ホシノミキビ科の一種	1点	松村 勲氏
大阪湾産マダコ	1点	鍋島 靖信氏
奈良県産テン・イタチ	2点	丸山健一郎氏
沼島産海岸動物	45点	大阪湾海岸生物研究会
河内長野市産シロハラ	1点	岩崎 佳子氏
大阪市産スズメ他	2点	小山 栄氏
南部港産漁獲混獲物	17点	渡部 哲也氏・小郷 一三氏
河内長野市産シロハラ	1点	岩崎 佳子氏
東大阪市産タヌキ	1点	西畑 敬一氏
■昆虫研究室		
ハネカクシ科甲虫模式標本	2点	林 靖彦氏
キイロシリブトジョウカイ	1点	六車 恭子氏
堺市産ヒラズゲンセイ	2点	福本 剛大氏
日本産ハチ目	44点	吉田 浩史氏
日本産昆虫	182点	河上 康子氏
日本産ハチ目	10点	桂 孝次郎氏
クマゼミの羽化写真	2点	幸内 恒俊氏
カブトムシ異常型	1点	西田 裕信氏
日本産昆虫	487点	春沢圭太郎氏
日本産ヒメバチ類	13点	河上 康子氏
南西諸島産直翅類	17点	冨永 修氏
日本及び外国産昆虫	191点	市川 顕彦氏
和歌山県産直翅類他	28点	後藤 伸氏
南西諸島産直翅類	5点	杉本 雅志氏

河内長野市産ムカシトンボ	1点	竹田 吉郎氏
スロベニア産トンボと洞穴性甲虫	54点	M. Bedjanic 氏
ボルネオ産クワガタ類完模式標本	1点	奥田 則雄氏
ベトナム産シマバエ類模式標本	32点	笹川 満廣氏
日本産キノコバエ類模式標本	16点	笹川 満廣氏
日本産蝶類-小路嘉明コレクション	15,870点	蝶研出版
エンマコガネ属副模式標本	1点	越智 輝雄氏
○標本交換先シドニー大学(豪州産セミ類)		

■植物研究室

寄贈および交換(*)標本、約4,000点もの寄贈があったことは(例年は1,000~2,000点)、本年度より利用可能となった新収蔵庫の効果であろう。市民の期待に応えることの重要性をうかがうことができる。また、九州・四国地域産標本の受け入れが顕著であり、資料収集活動の広がりには大きな成果。

京都市産イヌノフグリ	1点	中島 睦美氏
大阪府産ヒロハノアマナ	2点	今城香代子氏
大阪府産植物	40点	平野 弘二氏
日本産植物	150点	高知県立牧野植物園*
奈良市産クロミノニシゴリ	1点	田代 貢氏
大阪市産帰化植物	1点	西尾フミ子氏
鹿児島県黒島産ニラバラシ他	3点	大藤利衣子氏
奈良県産ケヤマウツボ	1点	田代 貢氏
大阪市産帰化植物	2点	西尾フミ子氏
鹿児島県黒島産マルバニッケイ他	3点	大藤利衣子氏
橿原市産タシロラン他	2点	小山 栄氏
宮崎県・徳島県産植物	25点	迫田 昌宏氏
大阪府産ヒメシオン・コギシギシ	2点	天野 一郎氏
寝屋川市産オオアブノメ	1点	木村 雅行氏
大阪市産トマトダマシ	1点	西尾フミ子氏
門真市産オオアブノメ	1点	木村 雅行氏
鹿児島県黒島産植物	4点	大藤利衣子氏
沿海州産植物	12点	初宿 成彦氏
福井県産ツクバネ	1点	小山 栄氏
大阪府産ノコギリソウ他	5点	藤井 俊夫氏
日本産植物	300点	都立大学牧野標本館*
フィリピン産ハウガンヒルギ	1点	渡辺 努氏
日本産スゲ属植物	13点	織田 二郎氏
奈良県産ツチアケビ	1点	松村 成夫氏

資料収集保管事業

滋賀県産コウキヤガラ他	4点	森 小夜子氏
岡山県産オウレン	1点	市川 顕彦氏
福井県産クロソヨゴ他	2点	小山 栄氏
日本産植物	700点	梅原 徹氏
大阪府産オグルマ	2点	木村 雅行氏
淀川産アカウキクサ	1点	桂 孝二郎氏
大阪府産コケイラン他	2点	清水 千尋氏
スゲ属植物	10点	加田 勝敏氏
日本産植物	300点	
		梅原 徹・丸井 英幹・山崎 俊哉氏
日本産植物	200点	藤井 俊夫氏
日本産植物	800点	藤井 俊夫氏
岩湧山産植物	1点	小山 栄氏
大阪府産植物	17点	田中 光彦氏
日本産植物	38点	若杉みちよ氏
日本産植物	150点	梅原 徹氏
宮崎県産他植物	27点	織田 二郎氏
三重県産ホソバオグルマ	1点	加田 勝敏氏
ダットンソバ	2点	池端 俊一氏
和歌山県産オモダカ	1点	山本 博子氏
愛媛県産ツメレンゲ	1点	花岡 皆子氏
鹿児島県黒島産ツチトリモチ	1点	大藤利衣子氏
鹿児島県黒島産スマレ属	1点	大藤利衣子氏
奈良県産ヒメアオガヤツリ	1点	山脇 和也氏
奈良市産ニオイタデ	4点	田代 貢氏
日本産植物	320点	頌栄短期大学*
日本産植物	100点	丸井 英幹氏
日本産植物	100点	
		丸井 英幹・山崎 俊哉氏
日本産植物	150点	迫田 昌宏氏
日本産植物	120点	梅原 徹氏
日本産植物	249点	
		大本花明山植物園*
四国産植物	200点	
		高知県立牧野植物園*
淀川産ボタンウキクサ	1点	持田 誠氏
白浜町栽培ハラソ	2点	小山 栄氏
五條市産イヌノフグリ	1点	丸山健一郎氏
河内長野市産変形菌標本	200点	田中久美子氏
橿原市産菌類標本	100点	関西菌類談話会
大阪府産菌類標本	50点	大宮 文彦氏
京都市吉田山産菌類標本	300点	

今村 彰夫氏・小田 貴志氏

■地史研究室

京都府和束町産紅柱石ホルンフェルス他	4点	阪野 広二氏
愛媛県産第四紀植物化石	227点	山下 大輔
スーダン産珪化木	一式	
		城野宏治郎・城野紀久子氏

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料	38件	都市整備局
兵庫県南部地震に関連の調査による沖積コア	2件	

独立法人産業総合研究所活断層調査センター

[2001年度追加]

鹿児島県徳之島産オキナエビスガイ化石	1点	澁川 恵一氏
--------------------	----	--------

III. 館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は山西…Y, 波戸岡…Hと略記する。	
大阪府能勢町で淡水魚類を採集	(4月, H)
瀬戸内海芸予諸島で魚類を採集	(6月, H)
瀬戸内海岩城島周辺で海産動物を採集	(8月, Y, H)
兵庫県御津町新舞子周辺で海岸動物を採集	(10月, H)
兵庫県浜坂町で魚類を採集	(10月, H)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集, 大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で, 担当学芸員(金沢-K, 初宿-S, 松本-Mと略記)が行った出張は次の通り(初宿については大阪府下をのぞく), 調査研究や資料収集のほか, 普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月4日	京都府京都市花脊峠	昆虫全般(M)
4月5日	滋賀県マキノ町 ネクイハムシ類調査	(S)
4月9日	長崎県諫早市多良岳	昆虫全般(M)
4月13日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査(M)
4月15日	岬町平井峠	昆虫全般(M)
4月19日, 23日		
	滋賀県大津市太神山	甲虫類(S)
4月21・22日	兵庫県神戸市西区, 淡路島北部	
		アメンボ類(K)
4月23日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査(M)
4月26日	滋賀県比良山	甲虫類(S)

資料収集保管事業

4月27・28日	兵庫県美方町水ノ山	昆虫全般 (K)	7月31日	滋賀県志賀町比良山	昆虫全般 (M)
4月28日	高槻市三島江	昆虫全般 (M)	8月2日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
5月2日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	8月7日	神戸市西区	アメンボ類 (K)
5月7日	滋賀県彦根市芹川	甲虫類 (S)	8月7日, 20日		
5月9日	八幡市男山・木津川	甲虫類 (S)		京都府八幡市	甲虫類 (S)
5月13日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	8月8日	島本町尺代	昆虫全般 (M)
5月18日	能勢町	昆虫全般 (M)	8月10日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
5月19日	奈良県奈良市平城京	昆虫全般 (M)	8月11日	島本町尺代	昆虫全般 (M)
5月21日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	8月12・13日	鳥取県江府町大山	昆虫全般 (M)
5月23日	鳥取県江府町大山	昆虫全般 (M)	8月10日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
5月25・26日	兵庫県美方町水ノ山	昆虫全般 (K・M)	8月18日	滋賀県志賀町八雲ヶ原	昆虫全般 (K)
5月27日	太子町上ノ太子～河南町平石		8月21日	島本町尺代	昆虫全般 (M)
		昆虫全般 (K)	8月20日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
5月27日	岬町平井峠	昆虫全般 (M)	8月28日～9月2日		
5月28日	滋賀県大津市太神山	甲虫類 (S)		北海道釧路	水生甲虫類 (S)
5月30日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	9月2日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
6月2日	太子町上ノ太子～河南町平石		9月14日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
		昆虫全般 (K)	9月23日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
6月2・3日	長崎県対馬	昆虫全般 (M)	9月30日	富山県有峰湖	昆虫全般 (S, M)
6月2・3日	熊本県阿蘇・大分県大分市	甲虫類 (S)	10月2日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
6月5日	兵庫県神戸市ロックガーデン		10月3日	兵庫県住吉川	昆虫全般 (M)
		昆虫全般 (M)	10月4日	河内長野市岩湧山	昆虫全般 (M)
6月8日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	10月6日	箕面市箕面	昆虫全般 (M)
6月9日	千早赤阪村金剛山	昆虫全般 (M)	10月11日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
6月10日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般 (M)	10月13日	滋賀県志賀町	甲虫類 (S)
6月12・13日	和歌山県日の岬・すさみ町	甲虫類 (S)	10月14日	枚方市磯島～渚	昆虫全般 (K・M)
6月12～14日	兵庫県波賀町	昆虫全般 (M)	10月20日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
6月16日	兵庫県神戸市ロックガーデン		10月21日	兵庫県三田市	昆虫全般 (M)
		昆虫全般 (M)	10月23・24日	高知県清海市足摺岬～大月町柏島	
6月18～20日	鳥取県大山・辰巳峠	甲虫類 (S)			アサギマダラ (K)
6月20日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	10月24日	和歌山市紀ノ川	昆虫全般 (M)
6月22日	鳥取県鳥取市	昆虫全般 (M)	10月31日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
6月23日	大阪市西中島, 高槻市芥川	昆虫全般 (K)	11月3日	兵庫県三田市	昆虫全般 (M)
6月30日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	11月5日	京都府八幡市	甲虫類 (S)
7月1日	滋賀県比良山	甲虫類 (S)	11月9日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)
7月9日	京都府美山町芦生	昆虫全般 (M)	11月11・17日	兵庫県猪名川町銀山	昆虫全般 (M)
7月9～16日	ロシア沿海州	水生甲虫類 (S)	11月24日	兵庫県住吉川	昆虫全般 (M)
7月13日	貝塚市和泉葛城山	トラップ調査 (M)	11月29日	箕面市箕面	昆虫全般 (K)
7月14日	東大阪市生駒山	昆虫全般 (M)	3月1～7日	福岡市, 韓国釜山・水原・ソウル	
7月19日	京都府八幡市	甲虫類 (S)			資料調査 (S)
7月27～30日	山梨県韭崎町御座石鉾泉・鳳凰山		3月9日	泉佐野市滝の池	昆虫全般 (M)
		高山性昆虫 (S)	3月25～30日	長野県信濃町野尻湖	昆虫化石 (S)

資料収集保管事業

3月26日 京都府網野町箱石浜 昆虫全般 (M)
 3月31日 千早赤阪村金剛山 昆虫全般 (M)

■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、藤井…F、佐久間…Sと略記する。

4月1日 京都府大江町大江山 (S)
 4月24・25日 琵琶湖周辺 (F)
 5月7日 彦根市芹川 (F)
 5月19日 彦根市芹川 (F)
 5月25・26日 兵庫県水ノ山 (F)
 5月31日 奈良市春日山 (S)
 6月5日 枚方市尊延寺 (F)
 6月18日 奈良市春日山 (S)
 6月21日 京都市吉田山 (S)
 6月26日 比良山 (S)
 6月30日 島本町水無瀬 (S)
 7月11日 島本町水無瀬 (S)
 7月12日 京都市東山 (S)
 7月13日, 14日
 奈良市春日山 (S)
 7月20日 京都市東山区疏水 (F)
 7月21日 箕面山 (S)
 7月26~28日 兵庫県水ノ山 (F)
 8月21日 京都府三島町 (F)
 9月2・3日 京都府美山町芦生 (F)
 9月18日 和歌山県広川町 (F)
 9月19日 京都市東山 (S)
 9月20日, 28日
 堺市鉢が峰 (S)
 9月30日 奈良市春日山 (S)
 9月30日~10月2日
 熊本県松島町 (F)
 10月3日 住吉川 (S)
 10月6日 箕面 (S)
 10月11日~11月9日
 インドネシア共和国スマトラ島 (F)
 10月13日 京都府立植物園(関西菌類談話会) (S)
 1月16日 和歌山県広川町 (F)
 2月14日 京都府木津町 (S)
 2月16~17日 和歌山県串本町 (F)
 3月5日 高知県土佐山田町 (F)

■地史研究室

担当者名 樽野…T, 川端…K, 塚腰…Gと略記する。
 2002年

4月27日 奈良市奈良公園
 淡水貝, シュレーゲルアオガエル (T)
 5月7日 滋賀県彦根市 石灰岩など (K)
 5月6日 奈良市奈良公園 淡水貝 (T)
 5月26日 滋賀県志賀町(比良山) 岩石 (K)
 8月5~9日 北海道浦幌町・鹿追町
 中生代放散虫化石 (K)
 8月31日 豊中市 大阪層群産植物化石 (G)
 9月17・18日 新潟県六日町・群馬県片品村
 岩石 (K)
 10月6日 福島県原町市, 鹿島町
 中生代植物化石 (G)
 10月24日 山口県下関市 中生代植物化石 (G)
 11月7日 兵庫県神戸市神戸層群
 新生代植物化石 (K, G)
 12月1日 泉佐野市 中生代化石 (T, K, G)
 12月3日 豊中市 大阪層群産植物化石 (G)
 12月15日 兵庫県神戸市神戸層群
 新生代植物化石 (K, G)
 12月23・24日 和歌山県那智勝浦町
 熊野酸性岩類 (G)

2003年

1月14・15日 広島県三次市 新生代植物化石 (G)
 3月3~7日 高知県佐川町・物部村
 中生代放散虫化石 (K)
 3月22日 貝塚市 大阪層群産植物化石 (G)

■第四紀研究室

担当学芸員名は石井久夫…IH, 石井陽子…IY, 中条武司…Nと略記する。

4月2日, 28日・29日
 松阪市櫛田川 現生貝類 (IH)
 5月3日 山梨県須玉町 現生マメシジミ (IH)
 5月25・26日 兵庫県北西部 第三紀・第四紀火山岩 (N)
 6月7~10日 熊本県天草周辺 現生貝類 (IH)
 7月20日 京都市東山区疏水 現生貝類 (IH)
 7月26~28日 兵庫県北西部 第三紀・第四紀火山岩 (N)
 8月5日 北海道沼田町 第三紀貝化石 (IH)
 9月3~5日, 10月24~26日
 山口県山口湾 現生貝類 (IH)

資料収集保管事業

9月9日, 22日	和歌山県広川町	現生貝類 (IH)
9月19日, 10月5日	兵庫県新舞子海岸	現生貝類 (IH)
10月15日	岡山県大原町	現生貝類 (IH)
2003年		
3月16日	奈良県香芝市穴虫峠	ガーネット入り砂 (IY)

IV. 業務委託による収集

業務名: 大阪湾ベントス採集・検定業務

採集水域: 大阪湾内 17 地点

採集方法: スミスマッキンタイア型採泥器を使用し, 1 地点当たり 3 回採泥する。船上で, 各々の試料について, 0.5 mm 目の篩を用いて泥を洗い流し, 篩上に残ったベントスをホルマリン固定し, 持ち帰る。持ち帰ったベントス試料を選別・同定し, 種ごとに計数する。

採集時期: 平成14年 8 月

V. 現有資料数

■動物研究室 (平成14年度末)

海綿動物	122 点
刺胞動物・有櫛動物	673 点
扁形・紐形動物	299 点
触手動物	135 点
環形動物	5,280 点
甲殻類	11,523 点
軟体動物	27,464 点
棘皮動物	2,191 点
原素動物	443 点
その他無脊椎動物	809 点
魚類	15,881 点
両生類	20,297 点
爬虫類	4,320 点
鳥類・哺乳類	3,940 点
(計)	93,377 点

■昆虫研究室 (未登録標本を含む)

標本総計 672,739 (平成 14 年度末時点)
 (※649,330 点 (平成13年度末時点)+日本産追加 790 点
 +国外産追加 12,492 点)
 (日本産 485,556点, 外国産 187,183点)

日本産昆虫	平成14年度末
Plecoptera カワゲラ目	432
Ephemeroptera カゲロウ目	130
Odonata トンボ目	17,610
Mantodea カマキリ目	340
Orthoptera 直翅目	10,642
Phasmida ナナフシ目	445
Dermaptera ハサミムシ目	461
Grylloblattodea ガロアムシ目	22
Blattodea ゴキブリ目	444
Isoptera シロアリ目	86
Embioptera シロアリモドキ目	25
Psocoptera チャクテムシ目	335
Thysanoptera アザミウマ目	24
Heteroptera 異翅類 (カメムシなど)	27,414
Homoptera 同翅類 (セミなど)	13,352
Neuroptera 脈翅目	1,428
Mecoptera シリアゲムシ目	1,644
Trichoptera トビケラ目	2,130
Heterocera 蛾 (ガ)	30,335
Rhopalocera 蝶 (チョウ)	55,034
Coleoptera 甲虫目	243,964
Diptera ハエ目	23,332
Hymenoptera ハチ目	39,643
その他 (各目)	16,284
(計)	485,556
外国産昆虫	
蝶 (チョウ)	77,538
蛾 (ガ)	7,606
膜翅目 (ハチ)	4,845
双翅目 (ハエ)	738
甲虫	56,922
脈翅目 (ウスバカゲロウなど)	46
同翅類 (セミなど)	5,761

資料収集保管事業

異翅類 (カメムシなど)	1,924
直翅型昆虫	2,558
トンボ	1,293
カワゲラ	66
その他 (各目)	3,098
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション (日本産含む)	12,439
韓国産昆虫コレクション (西川・桂・富永氏)	1,506
アフガニスタンの昆虫 (有田 豊氏他)	6,143
(計)	187,183

■植物研究室 (平成14年度末, 未登録標本を含む)

種子・シダ植物サク葉標本	213,820
蘚類標本	34,730
苔類標本	23,000
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	4,080
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
(計)	297,817

■地史研究室 (登録済標本数) 平成13年度末

岩石	1,249 点
鉱物	2,266 点
脊椎動物化石	1,515 点
古生代無脊椎動物化石	1,370 点
中生代無脊椎動物化石	1,665 点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841 点
放散虫化石	135 点
古生代植物化石	185 点
中生代植物化石	367 点
第三紀植物化石	3,741 点
(計)	30,334点

■第四紀研究室 (登録済標本数) 平成13年度末

人類遺物	29 点
植物化石	17,939 点
現生花粉プレパラート	2,114 点
現生花粉	941 (種)
現生シダ植物孢子	362 (種)
無脊椎動物化石	3,564 点
大阪市内ボーリング資料	1,408 (件)
(計)	26,357点 (件・種)

VI. 収蔵資料目録の発行

■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第35集

川副昭人・金沢 至・山本博子著

「大阪府の蛾類 (3) —ドクガ科・ヒトリガ科—」

大阪府に産する蛾類のうち、コケガ亜科の標本採集データ・文献記録、核型データと解説が掲載されている。

B5版, モノクロ核型図92図。平成15年3月31日発行。販売価 1,000 円。

VII. 自然史図書の収集

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及的な図書や図鑑類はこれまで主として本館の普及センターに配置していたが、一部をのぞいて大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターへに移し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成14年度(2002年度)も、新しく受け入れたものについて引き続きおこない、国内の刊行物については過去に遡及して入力を行っている。

平成14年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、888部で、平成14年度末現在の入力済み収蔵数は10,792部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成14年度に4,321冊、平成14年度末現在の累計136,922冊である。

1. 個人・機関からの受贈(交換分は除く、敬称略、故人含む、順不動)

- 個人：後藤 伸、菊田 譲、水田紀久、上島法博、富田幸光、小田英智、木村輝夫、内田春男、南 秀雄、野村英世、北脇和光、松帆真知子、阿部一博、李 信徳(台湾)、小倉利一、東 良雄、小椋純一、大野素亜、久家光雄、谷 幸三、真砂久哉、大谷一弘、粉川昭平、宮武頼夫、永松 敦、富 佐代子、中井末松、加納康嗣、Matjaz Bedjanic(スロベニア)、Melita Stern(スロベニア)、Darrin Lunde(米国)、および館員(石井久夫、初宿成彦、金沢 至、樽野博幸、和田 岳、松本史樹郎、佐久間大輔)
- 民間団体、出版社、企業など：(財)日本野鳥の会大阪支部、(株)教育画劇、双翅目談話会、(財)日本生命財団、(財)日本博物館協会、滋賀植物同好会、大阪書籍株式会社編集部、(株)小学館出版局、(株)環境調査研究所、富山県高等学校教育研究会、(株)東京書籍、ひかりのくに株式会社、「広島市の生物」調査団、徳島博物研究会、京都西ライオンズクラブ、北淡活断層シンポジウム実行委員会事務局、大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島総合学術調査団」
- 大学、研究所など：京都大学生態学研究センター、ロシア科学アカデミー極東支部生物土壤学研究所、東京農業大学農業資料室、福井市自然史博物館、大阪市立大学理学部附属植物園
- 政府機関及び自治体および関連団体など：(財)日本科学技術振興財団、文部科学省科学技術・学術政策局、(財)デジタルコンテンツ協会(資源エネルギー庁)、大山田村教育委員会、神戸市環境局減量リサイクル推進課、(財)沖縄県文化振興会、大阪市交通局、(財)大阪21世紀協会、沖縄県教育庁、広島市環境局企画

課、(財)宇宙開発事業団、環境省自然環境局、京都府企画環境部環境企画課、沖縄県文化環境部自然保護課、福岡県環境部自然保護課、鳥取県生活環境部環境政策課、茨城県生活環境部環境政策課、東京都環境保全局自然保護部、宮城県環境生活部自然保護課、松山市環境部環境指導課、熊本県環境生活部自然保護課、愛知県環境部自然保護課、北海道環境生活部自然保護課、

2. 購入等によるもの

●図書購入費による購入

平成14年度 173冊 1,298,107円

●消耗品費による購入

国内雑誌 科学など 9誌
外国雑誌 Copeia など 8誌 合計 408,887円

[平成14年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、生物科学、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、岩鉱。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌、Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会(動物学雑誌)

日本生態学会(日本生態学会誌)

日本生物地理学会(日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会(衛生動物)

日本魚類学会(魚類学雑誌)

日本植物学会(Journal of Plant Research)

日本遺伝学会(遺伝学雑誌)

日本藻類学会(藻類)

日本陸水学会(陸水学雑誌)

日本地質学会(地質学雑誌)

日本第四紀学会(第四紀研究)

日本古生物学会(Paleontological Research)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

資料収集保管事業

国際トンボ学会 (ODONATOLOGICA)

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行(当館編集) Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成14年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、4,321冊である。

■研究報告など出版物の配布

2002年4月～2003年3月の期間の配布内容は以下の通り

研究報告55号 484ヶ所 497冊(国内)

452ヶ所 455冊(国外)

自然史研究2巻17号、3巻1号

365ヶ所 377冊(国内)

192ヶ所 195冊(国外)

収蔵資料目録第33集

247ヶ所 259冊(国内)

55ヶ所 56冊(国外)

展示解説 特別展解説書 第28回～第31回

ミニガイド No. 19

第13集 ネイチャースクエア大阪の自然誌

276ヶ所 293冊(国内)

館報25号～26号

942ヶ所 998冊(国内)

いずれも第1回配布のみ。逡送便による複数の部数は数えていない。

普及教育事業

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行なっている。2002年度はなんばのOCAT（オーキャット）ビル内の「難波市民学習センター」と共同で自然史カレッジ@OCATを開催した。館外に場を移すことにより開館時間にとらわれず、博物館への来館者とは違う市民層への普及活動が可能となった。また現在の行事の体系に欠けている1つのテーマに沿ったまとまった講座を行うことができた。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（**印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ちし、よりきめの細かい普及教育活動を行なうために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事等に導入した（*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行なうのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されているようである。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年同様、大きく定員を超過している状態が続いている。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」* 高槻市

4月28日 申込250名（当選150名）参加者100名

「海べのしぜん」*、** 岬町長崎海岸

5月26日 申込670名（当選300名）参加者193名

「カー釣り」*、** 大阪市淀川河川敷

6月23日 申込850名（当選222名）参加者169名

「バッタのオリンピック」** 枚方市淀川河川敷

10月14日 申込470名（当選156名）参加者107名

「野草と木の実で遊ぼう」* 豊能町

10月27日 申込350名（当選150名）参加者90名

「化石さがし」泉佐野市

12月1日 申込428名（当選157名）参加者129名

5テーマで5回実施 延べ参加者数788名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。今年度は大阪府下とともに、近畿周辺地域を題材として取り上げた。

「芹川」滋賀県彦根市

5月19日 申込40名（当選40名）参加者18名

「南河内・太子町」太子町

6月2日 申込85名（当選85名）参加者57名

「芦屋川（ロックガーデン）」兵庫県芦屋市、神戸市

6月16日 申込74名（当選64名）参加者25名

「比良山」滋賀県志賀町

7月7日 申込24名（当選24名）雨天中止

「琵琶湖疏水」京都府京都市

7月20日 申込40名（当選40名）参加者30名

「広川ビーチ」和歌山県広川町

9月22日 申込60名（当選60名）参加者50名

「揖保川と新舞子の干潟」兵庫県御津町

10月5日 申込26名（当選26名）参加者15名

「住吉川」兵庫県神戸市

11月24日 申込67名（当選55名）参加者36名

8テーマ7回実施 のべ参加者数231名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「ツバメのねぐら」京都府京都市

8月17日 申込61名（当選61名）参加者57名

「今できている地層：扇状地・湖編」滋賀県志賀町

10月13日 申込25名（当選25名）参加者10名

2回実施 のべ参加者数67名

普及教育事業

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「ハチのお家を作ろう」*

5月12日 申込 57名(当選 38名) 参加者 31名

「キノコのつくり」

6月30日 申込 65名(当選 36名) 参加者 32名

「現在の植物からたどる植物の進化」*

8月4日 申込 21名(当選 19名) 参加者 19名

「ハチのお家をのぞいてみよう」

11月10日 申込 46名(当選 46名) 参加者 38名

「大阪のハムシの見分け方：初級編」*

2月9日 申込 20名(当選 20名) 参加者 17名

「カヤツリグサ科の解剖」

2月22日 申込 9名(当選 9名) 参加者 8名

「魚のからだ」*

2月23日 申込 17名(当選 17名) 参加者 12名

「鳥の調査データの処理」

3月2日 参加者 4名

「大阪のハムシの見分け方：中級編」*

3月8日 申込 15名(当選 15名) 参加者 13名
9回実施 延べ参加者数 174名

■野外実習

野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかなど、分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の野外調査1」

4月14日 申込 48名(当選 44名) 参加者 26名

「植生調査」*

9月29日 申込 45名(当選 30名) 参加者 28名

「鳥の野外調査2」

10月20日 申込 29名(当選 29名) 参加者 20名

「植生調査」*

12月1日 参加者 28名

4回実施 延べ参加者数 102名

■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察を行

なっている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

4月6日(土)* 90名

5月4日(土)* 96名

6月1日(土)* 83名

7月6日(土)* 75名

8月3日(土)* 58名

9月7日(土)* 72名

10月5日(土)* 62名

11月2日(土)* 69名

12月7日(土)* 39名

1月5日(日)* 47名

2月1日(土)* 74名

3月1日(土)* 24名 12回実施 延べ参加者数 789名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

長居植物園の自然により親んでもらおうとする行事。季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」* 4月27日 64名

「春の渡り鳥」* 5月11日 42名

「春の虫たち」 6月8日 75名

「クマゼミの羽化」* 7月20日 187名

「夏の虫たち」 8月10日 99名

「初秋の虫たち」 9月14日 90名

「秋の渡り鳥」* 10月12日 54名

「ダンゴムシとワラジムシ」 11月9日 46名

「冬越しの虫」 12月14日 84名

「冬鳥」* 1月11日 66名

「冬鳥」* 2月8日 71名

「冬鳥」* 3月8日 48名

12回実施 延べ参加者数 926名

■科学映画会

毎土曜(午後2時)、日曜・祝日(午前11時・午後2時)に実施しており、入館者サービスの一環として考えている。当館講堂にて上映。上映とあわせて当館学芸員が簡単な解説を行なっている。

4月「ビデオ科学館一クワガタムシ」

5月「ビデオ科学館—アカテガニー—」	841名(9日14回)	12月21日	「果実を食べるヒヨドリ冬の生態」	和田岳 37名
6月「雷鳥の四季」	1021名(10日17回)	1月18日	「大阪湾の磯の生物—20年間の調査結果から—」	山西良平 67名
7月「昆虫の化石」	419名(9日14回)	2月15日	「象の鼻はなぜ長い」	樽野博幸 46名
8月「ビデオ科学館—ニイニイゼミ—」	462名(7日12回)	3月15日	「干潟のハゼ」	波戸岡清峰 34名
9月「ヒキガエルの発生」	532名(9日13回)	12回実施	延べ参加者数 493名	
10月「カマキリのカムフラージュ」	778名(11日18回)			
11月「雑木林—人と自然の共生—」	581名(9日15回)			
12月「干潟の生き物」	429名(8日12回)			
1月「自然の風景—地形とその成り立ち」	324名(8日13回)			
2月「クロウサギの島—奄美の稀少動物たち—」	386名(8日11回)			
3月「ビデオ科学館—ナナホシテントウ—」	425名(9日14回)			
	370名(8日12回)			
	105日165回実施			延べ観覧者数 6568名

■自然史講座

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館集会室で毎月第3土曜日の午後3時～4時30分に開催した。近年は参加者が増加し、自然に関する学習機会の需要が高まっているように思える。集会室の定員(50～60名)ぎりぎりの多数の参加があることも珍しくない。

4月20日	「二枚貝の砂に潜る仕組み」	石井久夫 40名
5月18日	「韓国の地質」	川端清司 22名
6月15日	「韓国の初期農耕遺跡の地層」	石井陽子 28名
7月20日	「原始的被子植物はなぜ雌性先熟か？ 中生代の花と昆虫」	岡本素治 46名
8月10日	「東アジアの植生の移り変わり —白亜紀から現在まで—」	塚腰実 55名
9月21日	「大阪府のスズメバチ・アシナガバチ」	松本吏樹郎 50名
10月19日	「地層に残る台風の傷跡」	中条武司 18名
11月16日	「木の根とキノコの関係」	佐久間大輔 50名

■自然史カレッジ@ OCAT

(しぜんしかれっじ あっと おーきゃっと)

自然史博物館では、学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会として、毎月1回の「自然史講座」を実施している。しかしその月ごとの担当者によって話すテーマが設定されているために、あるテーマに沿ってまとまった講座を行うという事は困難であった。また会場についても、当館内で実施しており、開催時間についても開館時間内に限られるなど柔軟性もない。

そこで、これらの課題解消とともに利用者のアウトリーチを高めるために、浪速区湊町OCATビル内の「大阪市立難波市民学習センター」と共同で春・秋の2回の連続講座を企画した。開催時間については平日の午後7時～9時として、通勤の帰りでも参加可能な時間帯に設定した。

1. 春のシリーズ「街の生きものウォッチング」

テーマ：都市はもともとその場所にあった自然環境を、人間がほぼ完全に作り替えることによって、新しくできた環境です。都市にはあまり生き物がないという言葉をよく聞きますが、都市がつくられることによって、そこに住めなくなる生き物がいれば、逆に数を増やす生き物もいます。都市には意外と多くの生き物が暮らしています。都市にすむ生き物は、人間や他の生き物との関わり合いの中で、他の自然環境では見られないような工夫をしながらさまざまな暮らし方をしていることを、紹介しました。

申込：30名(当選30名)

出席：29名、6回とも皆勤は14名。

第1回 5月28日：

「それでもどっこい生きている

まちの生き物+キノコ」 佐久間大輔 参加者 24名

第2回 6月4日：

「公園の樹、街路の樹」 藤井伸二 参加者 25名

普及教育事業

第3回 6月11日:

「街で暮らす鳥たち」 和田 岳 参加者 23名

第4回 6月18日:

「大阪の都市昆虫1 ～ハチの街なか生活術～」
松本吏樹郎 参加者 26名

第5回 6月25日:

「大阪の都市昆虫2 ～街に生きるセミと甲虫～」
初宿成彦 参加者 22名

第6回 7月2日:

「ベランダの生態学」 岡本素治 参加者 22名

2. 秋のシリーズ「地球を理解する基礎講座」

テーマ: 私たちが暮らしている地球はおよそ46億年前に誕生して以来、さまざまな変動を経て現在のような姿になりました。その間に、さまざまな生物があらわれ、環境の変化で絶滅すると言うことをくり返してきました。最近では人類の活動の影響による地球温暖化やオゾン層破壊などの地球環境の悪化が指摘されるなど、地球に関する関心が高まっています。地球そのものをもっと理解して地球の過去・現在、そして未来を考えるきっかけとなるように、5回に分けて解説しました。最終回は野外で実際に地層や岩石を観察して、理解を深めました。

申込: 52名 (当選 52名)

出席: 45名 5回皆勤は 22名

(12月8日は希望者のみ参加)

第1回 11月5日:

「地球のおいたち・地球のしくみその1」
川端清司 参加者 39名

第2回 11月12日:

「地球のおいたち・地球のしくみその2」
川端清司 参加者 40名

第3回 11月19日:

「〇〇年前はどうしてわかる？」
樽野博幸 参加者 33名

第4回 11月26日:

「示準化石と示相化石—地質学における化石の役割—」
石井久夫 参加者 29名

第5回 12月3日:

「地層のでき方・重なり方」 中条武司 参加者 32名

野外実習 12月8日:

「地層・岩石の観察」 貝塚市蕎原 参加者 8名

■標本同定会**

子どもたちが夏休みに採集して作成した標本について、その名前を教える行事。生物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。館外から多数の専門家の協力を得て、毎年8月下旬に実施している。2002年は8月25日(日)に実施した。

同定件数 113件

植物 (菌類を含む) 34件

昆虫 (クモなど含む) 46件

貝・他の動物 12件

化石 9件

岩石・鉱物 12件

計 113件 178名

過去数年の同定件数と参加者数

平成14(2002)年8月25日(日)	113件	178名
13(2001)年8月26日(日)	109件	178名
12(2000)年8月27日(日)	121件	253名
11(1999)年8月29日(日)	147件	245名
10(1998)年8月30日(日)	125件	245名
9(1997)年8月24日(日)	100件	177名
8(1996)年8月25日(日)	141件	274名

■講演会

今年度は、館主催の特別展普及講演会、シンポジウムの他にも共催で地球科学講演会、化石研究会講演会など多彩な講演会を開催し、多数の市民に聴講いただき、好評をえた。

1. 化石研究会講演会(共催:化石研究会)

日時: 7月6日(土) 午後1時30分～午後3時

会場: 自然史博物館 講堂

演題・講師: 「貝殻のミクロの世界」

小林巖雄氏(新潟大学名誉教授)

内容: マクロからミクロにおよぶ貝殻構造研究の全般の紹介から、真珠のはなし、貝殻がつくられるしくみ、構造、機能、貝類の進化に至る広範囲な内容を体系的に話された。

参加者: 31名(化石研究会会員をのぞく)

2. 特別展「化石で見る植物の進化展」普及講演会

日時: 7月21日(日)

会場: 自然史博物館 講堂

演題・講師:

「植物は陸に上がった後どうしたか」

加藤雅啓氏（東京大学教授）

「化石の果実はおいしかったか」

西田治文氏（中央大学教授）

参加者：126名

3. 普及講演会「東アジアのトンボ研究」

日時：8月4日（日）

会場：自然史博物館 講堂

内容：ロシアから来日された3名の研究者に、日本のトンボとも関係の深いシベリアのトンボについて、研究の歴史と成果、現状と問題点などをスライド、OHPなどを交えて紹介していただいた（通訳付き）。

演題・講師：

「東アジアのトンボのシベリア南部における分布の西限と孤立個体群の起源」

オレグ・コステリン博士

（ロシア科学アカデミーシベリア支局）

「ロシア極東自然保護区におけるトンボの現状」

エレナ・マリコヴァ博士

（ロシア国立ウラゴヴェシエンスク教育大学）

「旧ソ連圏内アジア地域のトンボ相に関する総説」

アナトーリ・ハリトノフ教授

（ロシア国立科学アカデミーシベリア支局）

参加者：50名

主催：国際トンボ学会日本支部・関西トンボ談話会・大阪市立自然史博物館

4. 特別展「目で見る『がん』展」シンポジウム

会場：自然史博物館 講堂

テーマ・参加者：肝がん

9月21日（土） 250名 肺がん／最新の治療法

10月5日（土） 250名 がんの予防と最新治療

10月12日（土） 250名 消化管がん治療の最前線

10月19日（土） 220名 前立腺がん

10月26日（土） 220名

5. 地球科学講演会（共催：地学団体研究会大阪支部）

日時：3月9日（日）

演題・講師：

「大阪が火山灰でおおわれる日！？

—噴火予知と防災の最新火山学—

鎌田浩毅氏（京都大学総合人間学部教授）

会場：自然史博物館 講堂 参加者：189名

■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料解放により、博物館の利用機会の増した小中学生を対象に1995年から実施している。展示だけでなく、研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により、博物館と自然史科学に親しむきっかけを作ることが目的としている。冬の小学生向けの「博物館たんけんコース」、夏の中学・高校生向けの「学芸員体験コース」いずれも大阪市内の小中学校全生徒に配付される広報誌「タッチ」に掲載され、幅広い応募がある。収蔵施設などの見学の安全確保、実習の進行などには補助スタッフの協力におうところが大きい。

1. 「博物館たんけんコース」*

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学とスクラッチカードによる展示見学。ふだんは見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものと感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。1月12日、13日の2日間に渡って2回実施した。

申込総数 137名

第1回 1月12日（日） 参加者 70名

第2回 1月13日（月・祝） 参加者 46名

延べ参加者数 116名

2. 学芸員体験コース（中学・高校生向け）*

3日間連続の実習。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い、この結果をまとめ、展示として作成した。2002年は島本町のやまぶき溪谷で自然観察を行い、それに基づくハイキングマップを作成した。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらうプログラムとしても位置付けている。1998年からこの形式で実施している。

8月21～23日 申込 14名（当選 14名）参加者 9名

■夏休み自由研究相談*

夏休みに行う自由研究についてテーマの設定や調べ方までを含めて学芸員が相談にのる行事。夏休みの研究の進め方のアドバイスをするだけでなく、その後も引き続き博物館を訪れるようになる、きっかけを与える行事とするのも狙い。2002年は7月20日に実施した。的確な対応をするた

普及教育事業

め可能な限り事前申し込みをしてもらったこととしたが、当日の参加も可能とした。また本行事でも補助スタッフを募集し、相談者と学芸員の橋渡しの役目を担ってもらった。

申込 9 件、参加者 50 名 (16 件)

■植物学講座

3 日連続の講座形式で植物に関する体系的な知識を身につけてもらうための行事。専門性の高い上級向けの行事となった。

申込 56 名 (当選 56 名)

第 1 回 8 月 16 日 参加者 53 名

第 2 回 8 月 17 日 参加者 48 名

第 3 回 8 月 18 日 参加者 49 名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。これを克服すべく、高校の教員との懇談 (1999 年 2 月 20 日) を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000 年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始した。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。参加者の友人が新たに加入する例も多くみられた。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。

2003 年 3 月 31 日現在の部員数は、103 名。

●2002 年度の活動内容

4 月のミーティングにおいて部員の意見により 2 ヶ月に 1 度のペースでの行事を企画した。その他にも、部員からの希望に応じて、随時行事を追加した。その結果、2002 年度は年間 20 回の行事を企画・実施した。

部員の参加者数はのべ 268 名であった。

「春の長居植物園で生き物観察」

自然史博物館 4 月 7 日* 19 名

「ニワトリの解剖」

自然史博物館 5 月 3 日* 22 名

「磯観察」

岬町 5 月 12 日* 13 名

「金剛山」

千早赤阪村 6 月 9 日* 13 名

「クワガタ」

東大阪市 7 月 14 日* 15 名

「アサギマダラのマーキング」

滋賀県志賀町 7 月 31 日* 8 名

「標本実習」

自然史博物館 8 月 1 日* 24 名

「ミーティング」

自然史博物館 9 月 1 日* 13 名

「奈良公園のムササビとオオセンチコガネ」

奈良市 9 月 23 日* 18 名

「タカの渡り」

箕面市 10 月 6 日* 9 名

「研究室訪問第一弾」

京都大学理学部動物学教室 11 月 10 日 7 名

「多田銀山」

兵庫県猪名川町 11 月 17 日* 20 名

「植物化石」

兵庫県神戸市 12 月 15 日* 31 名

「河原で生き物観察」

高槻市 1 月 6 日* 9 名

「宰相山遺跡発掘現場見学会」

大阪市 1 月 8 日* 8 名

「昆陽池のカモとヌートリア」

兵庫県伊丹市 2 月 2 日* 7 名

「ミーティング」

自然史博物館 2 月 23 日* 5 名

「ミーティング」

自然史博物館 3 月 15 日* 11 名

「ミーティング」

自然史博物館 3 月 16 日* 8 名

「研究室訪問第二弾」

大阪市立大学理学部地球学教室 3 月 26 日 8 名

■教員向けの「総合的な学習の時間」研修プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまり、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まると考えられる。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。

「火山灰（野外）」

5月12日 申込10名（当選10名）参加7名

「火山灰（室内）」自然史博物館

6月9日 申込10名（当選10名）参加8名

「セミのぬけがらのしらべ方」東大阪市牧岡公園

9月16日 申込5名（当選5名）参加3名

「樹脂包埋標本の作製」自然史博物館

3月2日 申込27名（当選27名）参加14名

「分子生物学入門—PCR実習—s」自然史博物館

3月29日 申込15名（当選8名）参加8名

■生涯学習フェスティバル*

第11回大阪市生涯学習フェスティバルが大阪市生涯学習フェスティバル実行委員会主催（後援大阪市教育委員会他）により10月9日、10日の両日に大阪市中之島公園で開催された。当館は当館の普及活動と友の会をPRするためのパネル展示を行うとともにワークショップを行った。ワークショップでは実体顕微鏡による標本観察やドングリをつかった遊び、コンピュータ検索などを体験してもらい、多数の参加者を得た。

■補助スタッフによるボランティア事業

大阪市立自然史博物館では、1995年度から、ボランティア事業として、友の会会員による補助スタッフ制度を導入した。本事業の運営は特定非営利活動法人大阪自然史センターに委託し、その事業組織である大阪市立自然史博物館友の会会員に対して募集を行なっている。補助スタッフの採用にあたっては、行事実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じた事前研修、打ち合わせなどを当館学芸員が実施している。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組むとともに、その成果を社会に還元することを通じて、当館の普及事業の一翼を支えている。2002年度は、延べ55回（日）の行事機会に延べ279人・日の補助スタッフが参加した。また、これらのための研修を延べ42回（日）開催し、これを受

講した人たちは延べ250人・日に達する。このことから事前研修は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

II. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの一事業として運営されており、その活動の輪を大きく広げている。友の会では、博物館主催行事とは別に、計25回の友の会主催行事を企画し、延べ1200名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員との交流が行われている。また、「セミのぬけがらしらべ」では、都市公園におけるセミの発生について継続データの収集を行っている。会員の多様なニーズに応じていくためにも、今後行事などをますます充実させていく必要があると考えている。

■庶務

1. 2002年度の会員数は1967名（1年会員1789名、半年会員154名、賛助会員24名）。2001年度は1866名（1年会員1,686名、半年会員158名、賛助会員22名）。

※2002年度賛助会員：浅井 彪、浅葉 清、永徳 定、大宮文彦、小郷一三、陰山崇子、志村研太郎、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田村英美子、寺島久雄、西田良司、野村典子、長谷美代子、浜田 弓、丸山精一、宮武頼夫、山下良寛、山本 章、㈱新興出版社啓林館、大阪市立環境学習センター、浦野動物病院、ほかの方々（順不同、敬称略）

2. 5回の定例評議員会を開き、会の事業・庶務等について審議した。

3. 行事検討委員会を設置し、委員会を行った（1回）。そこで今後の友の会行事のありかたについて審議した。

4. Nature Study 誌の誌面充実のため、Nature Study モニター会員をNature Study 誌上で公募し、Nature Study モニター制度を開始した。

5. 2月24日に広島市JAビルで開催された環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会・中国新聞社による「瀬戸内の自然—自然史博物

普及教育事業

館で学ぶあなたの町の自然」に協賛出展した。

6. 11月3-4日に兵庫県三田市で開催された兵庫県立人と自然の博物館・NPO法人「人と自然の会」による「スーパー・ドリームスタジオ」および「ひとはくフェスティバル'02」に協賛出展した。

■事業報告

1. 行事

25回の行事を企画し、23回実施した(中止2回)。延べ1200名の会員とその家族が参加した。

- (1) 2002年度友の会総会
自然史博物館 1月27日(日) 184名
- (2) 友の会のつどい
「みんなでスーパードリームスタジオ」
兵庫県立有馬富士公園および兵庫県立人と自然の博物館 11月3日(日) 30名
- (3) 昆虫採集入門講座中級編「美方高原」
兵庫県美方町 5月25日(土)~26日(日) 28名
- (4) 友の会合宿「美方高原」
兵庫県美方町 7月26日(金)~28日(日) 48名
- (5) 「鞆公園セミのぬけがらしらべ」
大阪市西区 9月8日(日) 112名
- (6) 1泊2日の観察会「櫛田川河口干潟」
三重県松阪市 4月28日(日)~29日(月・祝) 55名
- (7) 学習会「櫛田川河口干潟とそこにすむ生物」
自然史博物館 4月7日(土) 53名
- (8) 自然史スケッチ旅行「浜坂」
10月13日(土)~14日(月・祝) 18名
- (9) 「和泉葛城山ナイトハイク」
(きしわだ自然友の会との共催)
6月29日(土)~30日(日) 雨天中止
- (10) 「コケ植物入門講座」
自然史博物館 8月11日(日) 35名
- (11) 「博物館裏庭ビオトープ」
一田んぼづくり・池ほりー」
自然史博物館 2月24日(日) 62名
- (12) 友の会春の夕べ「世界の蝶と甲虫」
自然史博物館 4月20日(土) 48名
- (13) 友の会夏の夕べ「化石からたどる植物の進化」
自然史博物館 7月21日(日) 57名

- (14) プレス・プレビュー「目で見る『がん』展」

自然史博物館 9月13日(金) 15名

- (15) 月例ハイキング(第3日曜日、ただし12月は第2日曜日)

1月20日「矢田丘陵」 34名

2月17日「奈良公園の鳥・シカ・ムササビ観察会」
60名

3月17日「枚岡公園でキリガの観察」 35名

4月21日「春の能勢」 雨天中止

5月19日「平城宮跡」 30名

6月16日「初夏の武庫川武田尾溪谷」 57名

7月21日「箕面」 60名

8月18日「比良山八雲ヶ原」 11名

9月15日「橿原神宮の森」 96名

10月20日「街なかのクモを探そう：浜寺公園」
22名

11月は「友の会のつどい」を実施(上記)

12月8日「奈良公園の鳥・シカ・ムササビ観察会」
50名

2. 刊行・製作：Nature Study誌48巻1号(通巻572号)~12号(通巻583号)を発行。このうち、1, 3, 5, 7, 9, 11月号の表紙をカラー印刷とした。

■役員

会長：西川喜朗

副会長：谷田一三・那須孝徳

評議員：梅原 徹、浦野信孝、桂 孝次郎、白木江都子、杉浦真治、田代 貢、寺島久雄、鍋島靖信、花岡皆子、春沢圭太郎、堀田 満、道盛正樹、六車恭子、村井貴史、山下裕子

会計監査：加納康嗣・左木山祝一

Ⅲ. 博物館実習生の受け入れ

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の41名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏期：9月4日~8日

秋期：11月13日~17日

普及教育専攻コース

夏期：8月10日・11日・21日~23日

冬期：12月21日・22日・11日～13日

仲道 紗也香（追手門学院大）、澤出 和宏（大阪学院大）、田中 裕子・村木 尚子（帯広畜産大）、中溝 葵・鹿間 善人（九州大）、藤井 健・荅原 正樹・木村 基也（九州東海大）、前田 雄亮・大森 勇門・橋本 沙知（京都教育大）、勝部 真知（神戸大）、森 さやか（奈良女子大）、多田 直樹・石森 博雄（琉球大学）、塩田 さくら・難波 昌耶（追手門学院大）、後藤 百美子・土橋 千恵・前田 千穂・三尾 尚己（大阪教育大）、新田 悠・山下 真一（大阪府立大）、宮川 亜里砂（高知大）、須藤 徹（神戸芸術工科大）、宇根 真弓・白川 玲香・大崎 晋太郎・櫻木 かおり・小澤 大輔（神戸大）以上、一般実習コース上村 忠嗣・島田 由美子・伊東 幸介（京都府立大）、谷口 友紀（大阪教育大）、楠本 智恵（大阪府立大）、田中 三恵子（滋賀県立大）、田中 麻美・織部 千映・岩澤 昭子（大阪女子大）、渡部 絵美（京都橘女子大）以上、普及教育専攻コース

平成14年度(2002年度)普及行事, 特別展, 特別陳列, 友の会行事一覧表

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
やさしい自然 かんさつ会	28. レンゲ細 もん	26. 海べのしぜ ん	23. カニ釣り			14. バック 27. 木の英			2. 化石さがし			
地域自然誌 シリーズ	19. 芦川	7. 比良山(雨 天中止) 20. 疏水	3. 太子町 23. ロックガー テン			22. 広川ビーチ	5. 新舞子	24. 住吉川				
テーマ別 自然観察会		12. ハチI	30. キノコ	17. ツバメ			13. 扇状地					
室内実習				4. 植物				10. ハチII			9. ハムシ 22. カヤツリガ 23. 魚	2. データ処理 8. ハムシ
野外実習	14. 馬					29. 植生調査	20. 鳥		1. 植生調査			
ジュニア自 然史クラブ	7. 長居植物園	3. ニフトリ 12. 磯観察	9. 金剛山	14. クワガタ 31. アサキマダラ	1. 標木実習	1. ミーティング 23. 奈良公園	6. タカ	10. 京都大学 17. 多田嶽山	15. 植物化石	6. 河原 8. 幸相山遺跡	2. 昆陽池 23. ミーティング	15. ミーティング 16. ミーティング 26. 大塚市立大学
総合学 習教師研修		12. 火山灰	9. 火山灰			16. セミのぬけ から						2. 樹脂処理 29. POR
植物園案内 (第1土曜)	6	4	1	6	3	7	5	2	7	5(日)	1	1
植物園案内 動物・昆虫 (第2土曜)	27	11	8	20(第3土曜)	10	14	12	9	14	11	8	9
自然史講座 (第3土曜、8月 のみ第2土曜)	20	18	15	20	10	21	19	16	21	18	15	15
特別行事				6. 化石講演 会 20. 自由研究 21. 特展講演会	4. 普及講演会 「東アジアの トンボ」 16-18. 植物学 講座 21-23. ドキド キ中高生 25. 同定会	9. 10. 生涯学 習フェス		12-13. ドキド キ小学生				9. 地球科学講 演会
科学映画会 (土日祝上映)	上映回数9日 回数14回	10日/17回	9日/14回	7日/12回	9日/13回	11日/18回	9日/15回	8日/12回	8日/13回	8日/11回	9日/14回	8日/12回
展 示	(3/16) ←世界の蝶と甲虫→5/12 5/18←朝鮮半島と 日本列島→6/30 7/6←化石からたどる 植物の進化→9/1 9/14←目で見る「がらん」→11/4											
友の会	7. 榎田川学習 会 20. タベ 28-29. 榎田川	25-26. 昆虫採 集入門講座	29-30. 和泉葛 城山(雨天中 止)	21. タベ 26-28. 友の会 合宿	11. コケ	8. セミぬけがら ら	13-14. スケッ チ合宿			27. 友の会総会	24. 郷土ヒー ロープ	
月例ハイク (第3日曜)	21. 能勢(雨天 中止)	19. 平城京	16. 武田尾	21. 箕面	18. 比良山	15. 権原神宮	20. クモ	3. (秋のつど い)	8. 奈良公園 (第2日曜)	19. お菊山	16. 三川合流 (雨天中止)	16. 海藻(雨天 中止)

平成14年度補助スタッフによるボランティア事業一覧

補助スタッフがサポートした行事				行事に対応する研修、下見、打合せ		
行事名	場所	月日	人数	場所	月日	人数
レンゲ畑のいきもの	高槻市三島江	4月28日	3人	当館	4月27日	3人
ハチのお家を作ろう	当館	5月12日	1人	当館	4月27日	1人
海べのしぜん	岬公園	5月26日	26人	岬公園	5月25日	24人
カニ釣り	大阪市内	6月23日	15人	大阪市内	6月22日	15人
キノコのづくり	当館	6月30日	3人			
現在の植物からたどる植物の進化	当館・長居植物園	8月4日	3人	当館・長居植物園	8月3日	3人
魚のからだ 実習	当館	2月23日	2人			
植生調査1	京都府八幡市男山	9月29日	4人	男山	9月25日	3人
植生調査2	京都市東山	12月1日	3人	当館	11月30日	1人
夏休み自由研究相談会	当館	7月20日	4人	当館	7月13日	4人
ドキドキ子ども自然史ウォッチング 学芸員体験コース	島本町やまぶき溪谷	8月21日	5人	島本町やまぶき溪谷	8月11日	4人
	当館	8月22日	5人			
	当館	8月23日	4人			
ドキドキ子ども自然史ウォッチング 博物館探検コース	当館	1月12日	3人	当館	12月22日	2人
		1月13日	3人			
生涯学習フェスティバル	中之島公園	11月9日	2人	当館	10月12日	2人
		11月10日	2人		10月31日	2人
大阪のハムシの見分け方	初級編 長居公園	2月9日	6人	野外研修1 金剛山	5月18日	5人
	中級編 長居公園	3月8日	5人	野外研修2 槇尾山	6月16日	8人
				室内研修1 当館・長居公園	1月18日	6人
				室内研修2 当館・長居公園	2月8日	9人
				室内研修3 当館・長居公園	3月1日	6人
植物園案内	長居植物園	4月6日	8人	長居植物園	4月6日	6人
		5月4日	8人		5月4日	7人
		6月1日	8人		6月1日	7人
		7月6日	7人		7月6日	7人
		8月3日	6人		8月3日	5人
		9月7日	8人		9月7日	8人
		10月5日	5人		10月5日	5人
		11月2日	4人		11月2日	4人
		12月7日	6人		12月7日	5人
		1月5日	7人		1月5日	6人
		2月1日	5人		2月1日	5人
		3月1日	7人		3月1日	5人
		植物園案内動物編「春の渡り鳥」 「春の渡り鳥」 「秋の渡り鳥」	長居植物園		4月27日	9人
5月11日	5人			5月5日	4人	
10月12日	8人			10月8日	5人	
植物園案内動物編「クマゼミの母」	長居公園	7月20日	4人			
植物園案内動物編「冬鳥」	長居植物園	1月11日	5人		1月4日	5人
		2月8日	8人		2月1日	7人
		3月8日	6人		3月2日	4人
ジュニア自然史クラブ	長居	4月7日	7人			
	長居	5月3日	6人			
	和歌山夷	5月12日	3人			
	金剛山	6月9日	3人			
	十三峠	7月14日	4人			
	比良山	7月31日	1人			
	長居	8月1日	4人			
	長居	9月1日	5人			
	奈良公園	9月23日	5人			
	箕面	10月6日	4人			
	多田銀山	11月17日	4人			
	神戸市白川台	12月15日	2人			
	鶴殿	1月6日	2人			
	宰相山遺跡	1月8日	2人			
	昆陽池	2月2日	2人			
長居	2月23日	2人				
長居	3月15日	4人				
長居	3月16日	1人				

科学系博物館教育機能活用推進事業

昨年度まで実施した科学系博物館活用ネットワーク推進事業に引き続き、特定非営利活動法人大阪自然史センターと連携して「科学系博物館教育機能活用推進事業」（平成14年8月6日付け14文科生第350号）の委託を受け事業を実施した。この事業は博物館が持っている、学習用資料、学芸員の持つ観察ノウハウ、標本の利用などさまざまな教育資源を活用し、地域と学校とに博物館を利用して学ぶ輪を広げることを目的としたもので、委託金547万円を受け、本事業に伴い雇用した教育スタッフ（橘麻紀乃）を中心に学芸員・評議員らと事業を推進した。

事業としては、学校を介した博物館利用の推進のために、「学習プログラムの共同研究開発」、「デジタルミュージアムを利用するためのCD-ROM教材の開発」、「TMネットワークを活用した学校教員の研修」を進め、さらに従来博物館を利用する年代としては少数になるものの、教育面では重要な時期である中高生を対象にした「ジュニア自然史クラブ事業」、「中・高生による博物館電子会議」など多様な事業を展開した。また、博物館は地域の中で、自然をみつめる人々の交流拠点である、その輪の中で情報の受発信ができるのだ、というコンセプトのもと、大阪自然史フェスティバルを企画、環瀬戸内地域自然史系博物館連絡協議会・大阪自然環境保全協会の協力の下で平成15年3月21～23日の3日間開催、大きな効果をあげた。このフェスティバルには85の自然史関連アマチュア団体・地域団体等が参加し、教員や生徒を含む約2万人が来場した。

これらの活動については、科学系博物館教育機能活用推進事業の報告書が別途出版されているのでそちらを参照していただきたい。

デジタルミュージアムの推進事業

I. 事業の趣旨

約100万点の館蔵資料のデジタル情報をベースに、さまざまな工夫を凝らしたコンテンツを作成し、高度化したインターネット環境を通じてそれらを市民に発信することによって、博物館としての事業効果を飛躍的に向上させる。

大阪市立自然史博物館ホームページは97年7月と、本市でも最も早く開設したホームページサイトのひとつである。自然史博物館の展示および催事情報にとどまらず、博物館の標本や学芸員の研究活動に関連した鳥・昆虫・植物などさまざまな情報を提供してきた。提供しているコンテンツは学芸員が館内のパソコンにより作成・提供している。しかし、日常業務の合間を縫った更新作業となっているため、音声や動画、操作に応じて動くアニメーションなどの、作成に時間・手間・高度な知識を要する要素の作成が行えない。結果として、ホームページ初心者を引きつけ、演出する「遊び」の要素に欠けている。また、館内の展示室（花と緑と自然の情報センター）ではさまざまな生き物に関する学習資料を提供しているが、サーバーの能力から、動画のインターネットへの提供は現在見合わせている。本事業では、インターネット環境を改善、充実し、館蔵品等にもとづく質の高いコンテンツを広く一般市民や学校教育の場に提供しようとするものである。

本事業は大阪市の「いきいき大阪再生プラン」の一環として実施されるもので、人件費については国の緊急雇用特別基金を充当した。

II. 事業の概要

● デジタルアーカイブの蓄積・整備

標本情報のデータベース化（遡及入力）

画像情報のデジタル化（遡及入力）

● インターネット環境の充実

各種ホームページデザイン更新

現在まで学芸員の手作業により作成してきたホームページの中から、必要性の高いものから順次、専門的な能力を有する人材に委託してデザインを更新していく。

● 各種情報提供事業コンテンツの作成

バーチャル展示室

展示物の写真、解説パネルなどをデジタル化し、インターネットを通じて観覧できるようにする。

大阪の自然情報

標本だけでなく、さまざまな機関・団体が保有している自然情報を系統的に収集し、分野別にデジタル化、整備していく。

館出版物のPDF化

博物館が行った観察会の資料や博物館友の会の会誌「Nature Study」などの出版物（紙媒体）により公開されているが、すでに入手困難になっているものも多く、活用することが難しい。これらを順次PDF化し、インターネットを通じて閲覧できるようにする。

● 「いきものマップ」充実事業

収蔵標本に基づくデータを、公開中の「いきものマップ」に取り込むために、採集地情報を緯度・経度または標準メッシュコードにより登録し直す。

庶

務

I. 沿革

昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上
昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設

昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定

昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定

昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）

昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39. 7. 4 退任）

昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目（元軒小学校校舎改造）に移転

昭和33年1月13日－開館

昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申

昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）

昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40. 7. 31 退任）

昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58. 6. 1 退任）

昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定

昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織

昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織

昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工

昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工

昭和48年4月1日－旧館閉館

昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）

昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布

昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行

昭和49年4月27日－開館

昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定

昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－

61. 3. 31 退任）

昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定

昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定

昭和61年3月31日－常設展更新業務完成

昭和61年4月1日－新装開館

昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－2. 3. 31 定年退職）

昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2. 3. 31 退任）

平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3. 3. 31 退任）

平成2年度 ー文化施設整備構想調査

平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5. 3. 31 退任）

柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4. 3. 31 定年退職）

平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業

21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査

平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7. 3. 31 退任）

平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9. 3. 31 定年退職）

平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置

平成8年度 ー展示更新基本設計及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討

平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10. 3. 31 退任）

平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計

平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任（13. 3. 31 退職）

平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築工事着工

平成13年3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工

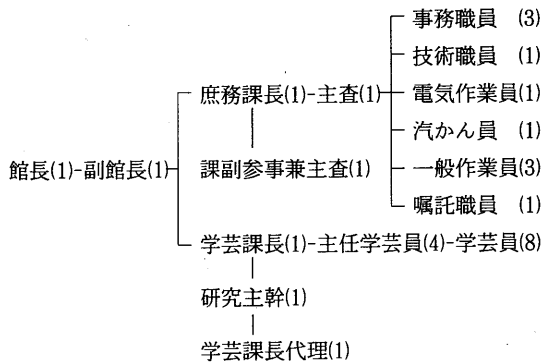
平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任（非常勤嘱託）

平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行

花と緑と自然の情報センター開館

II. 組 織

■職員数 (平成15年3月31日現在) 計30名



■職員名簿 (平成15年3月31日現在)

職 種	氏 名	職 種	氏 名
館 長	那須 孝悌	学芸課長	岡本 素治
副 館 長	嵯峨山淳二	研究主幹	樽野 博幸
庶務課長	米坂 和芳	学芸課長代理	山西 良平
庶務課副参事兼主査	畠山 賢治	主任学芸員	石井 久夫
庶務課主査	奥田 亮子	〃	金沢 至
事務職員	長谷 豊英	〃	川端 清司
〃	山岡 祐二	〃	藤井 伸二
〃	中野 剛志	学芸員(動物)	波戸岡清峰
技術職員	谷 勝文	学芸員(地史)	塚腰 実
汽かん員	吉田 義昭	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
電気作業員	阪口 忠義	学芸員(動物)	和田 岳
一般作業員	泉澤 英男	学芸員(植物)	佐久間大輔
〃	木嶋 正弘	学芸員(四紀)	石井 陽子
〃	小池 伸	学芸員(四紀)	中条 武司
嘱託職員	平岡徳治郎	学芸員(昆虫)	松本吏樹郎

■人事異動

平成14年4月1日 田端 健二 西淀川スポーツセンターへ転出
 泉澤 英男 科学館から転入
 平岡徳治郎 新規採用(嘱託職員)
 4月17日 畠山 賢治 科学館から転入
 4月26日 和田 健治 西成青少年会館へ転出
 山岡 祐二 施設課から転入
 平成15年3月31日 嵯峨山淳二 定年退職
 谷 勝文 定年退職

III. 庶務日誌

■平成14年度 博物館関係者来訪

14. 4. 24 三重県教育委員会事務局職員3名
 情報センターの運用等についての視察
5. 31 北九州市立自然史博物館職員3名
 学校教育との連携についての視察
6. 1 長野市立博物館職員1名
 特別展に関する資料調査
6. 19 ミュージアムパーク茨城県自然博物館職員2名
 管理運営等についての視察
8. 22 豊橋市自然史博物館職員1名
 先進都市調査研修
12. 11 鹿児島県立博物館職員1名
 展示方法についての研修・視察
1. 25 島根県立三瓶自然館3名
 科学系博物館教育機能活用事業に係る視察
15. 2. 6 滋賀県立博物館9名
 博物館展示を媒体とした交流方法の資質向上についての館外研修
2. 26 群馬県立自然史博物館職員2名
 学校教育との連携等についての視察
3. 26 北海道大学総合博物館職員11名
 博物館の運営に関する視察

■館長受嘱委員

島根県三瓶埋没林調査保存(三瓶自然館展示更新)検討委員会委員長:

平成11(1999)年度~平成15(2003)年11月12日

河内長野市文化財保護審議会委員(河内長野市教育委員会発令):

平成12(2000)年11月1日より継続

文部科学省独立行政法人評価委員会(社会教育分科会国立科学博物館部会)臨時委員:

平成13(2001)年2月23日~平成15(2003)年2月6日
 文部科学省委嘱「博物館運営の活性化・効率化に資する評価の在り方に関する調査研究」委員会委員:

平成13(2001)年12月21日~平成15(2003)年3月

日本博物館協会評議員:

平成14(2002)年6月18日~平成16(2004)年3月31日

庶 務

IV. 決 算

■平成12年度～平成14年度（人件費を除く）

（単位 千円）

		事 項	平成12年度 決 算	平成13年度 決 算	平成14年度 決 算
歳 入	第 1 部	入 館 料 ほ か	14,438	20,629	17,444
		雑収（展示解説等売却代）	1,815	3,045	3,723
		国 庫 補 助 金	0	0	0
	第 1 部 計	16,253	23,674	21,167	
歳 出	第 1 部	常 設 展 覧 事 業	3,599	2,632	1,713
		特 別 展 覧 事 業	6,347	49,066	21,309
		調 査 研 究 事 業	7,689	13,254	13,357
		資 料 収 集 保 管 事 業	5,280	3,727	4,777
		普 及 教 育 事 業	3,753	2,195	2,215
		充 実 活 性 化 事 業	3,206	3,798	4,022
		一 般 維 持 管 理 費	77,898	125,561	130,836
	小 計	107,772	200,233	178,229	
	第 2 部	館 蔵 品 整 備 事 業	12,000	12,000	11,000
		寄 贈 標 本 整 理 事 業	3,860	3,975	3,975
		デジタルミュージアムの 推 進 事 業	0	9,386	31,553
		研 究 機 器 整 備 事 業	9,716	2,192	0
		施 設 整 備 事 業 等	2,429	0	4,306
		自然史博物館増設「花と緑と 自然の情報センター」建設	2,363,297	500	0
小 計	2,391,302	28,053	50,834		
第 1 部 ・ 第 2 部 合 計		2,499,074	228,286	229,063	

庶 務

V. 入館者数 (平成14年度)

区分 月	有 料				無 料							計	開館 日数
	個 人		団 体		団 体				個 人				
	大 人	高・大	大 人	高・大	中学生	小学生	幼・保 育園等	養護学 校・他	団 体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他		
(14) 4	6,460	180	174	0	763	5,263	131	104	306	9,795	5,892	29,068	25
5	7,852	303	180	122	415	11,703	2,287	220	887	9,150	5,503	38,622	27
6	2,642	144	80	143	569	76	196	347	72	2,741	979	7,989	23
7	3,018	724	14	273	277	62	335	0	62	4,932	2,140	11,837	26
8	6,293	1,620	79	435	221	249	324	70	86	10,571	2,952	22,900	27
9	6,062	642	7	239	238	268	481	35	109	5,520	5,731	19,332	25
10	5,811	394	1,035	641	248	8,406	1,685	611	756	5,771	8,014	33,372	27
11	4,663	593	730	74	2,024	1,126	1,492	82	298	3,887	2,937	17,906	26
12	988	255	9	154	253	297	136	16	59	1,470	589	4,226	23
(15) 1	1,689	108	0	0	16	78	78	0	29	2,171	921	5,090	23
2	1,786	125	8	68	453	213	256	31	69	2,081	952	6,042	24
3	3,690	114	0	0	31	43	1,129	168	127	4,643	1,468	11,413	26
計	50,954	5,202	2,316	2,149	5,508	27,784	8,530	1,684	2,860	62,732	38,078	207,797	302

■無料団体観覧内訳 (平成14年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼 稚 園・保 育 所	111	6,151	35	2,379	146	8,530
小 学 校	108	10,288	190	17,496	298	27,784
中 学 校	41	2,836	63	2,672	104	5,508
養 護 学 校・他	50	971	17	713	67	1,684
団 体 引 率 者		1,405		1,455		2,860
計	310	21,651	305	24,715	615	46,366

庶 務

■特別展入館者数（平成9年度～平成14年度）

種別 年度	個 人				団 体			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大 人	高・大	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大 人	高・大	中学生以下 他無料				
9	7,690	3,140	3,057	8,043	18	293	1,163	23,404	8.2～9.28	50	海底の動物 ーベントスの世界ー
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8.1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8.7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～5.27	28	50周年だよ！標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6.9～7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8.4～9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10.6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12.8～1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあい ワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7.6～9.1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11.4	45	目で見える「がん」展

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成14年度 22件

年月日	団 体 名	人数
14・4・6	レピドプテリストセミナー	20
4・7	甲虫学会実行委員会	15
5・26	石友会	20
6・16	昆虫情報処理研究会	10
6・30	野尻湖花粉グループ	10
7・6	化石研究会	10
8・24	大阪鳥類研究グループ	10
11・2	昆虫情報処理研究会	15
11・3	石友会	16
11・22～24	甲虫学会、鞘翅学会	15
12・7	近畿植物同好会	6
12・2	野尻湖花粉グループ	10

年月日	団 体 名	人数
12・23	大阪自然史センター	15
15・1・19	関西トンボ談話会	10
2・2	近畿地学会	15
2・9	大阪鳥類研究会	15
2・11	昆虫情報処理研究会	15
2・15	関西トンボ談話会	10
2・16	近畿植物同好会	17
2・23	石友会	15
3・9	大阪鳥類研究グループ	10
3・16	近畿地学会	10

■集會室 平成14年度 30件

年月日	団体名	人数
14・5・12	日本鱗翅学会近畿支部例会	40
5・21	淡路景観学校	23
6・12	ワールドカップ関係者待機	220
6・14	ワールドカップ関係者待機	220
6・19	東大阪中学校教員研修	40
6・22～23	ワールドカップ関係者待機	220
7・6～7	化石研究会	40
7・14	阪和野尻湖友の会	30
8・3	鳥学会近畿地区会	40
9・1	地学団体研究会大阪支部	30
9・22	甲虫学会例会	40
10・27	野鳥の会	30
11・2	大阪コミュニケーションアート専門学校	30
11・6	西日本私立小学校	30
11・9	筑紫会	25
11・22～24	甲虫学会・鞘翅学会	40
11・27	花と緑のまちづくり館	40
12・1	関西トンボ談話会	30
12・4	花と緑のまちづくり館	40
12・8	花と緑のまちづくり館	70
12・17～18	鳥と果実の研究会	30
15・1・11	大和川を調べる会	30
1・19	近畿植物同好会	50
1・30	日本海洋科学専門学校	50
2・2	関西トンボ談話会例会	50
2・16	大阪湾海岸生物研究会	30
2・22	花と緑のまちづくり館	45
3・2	野尻湖友の会	40
3・9	近畿植物同好会総会	60
3・30	関西トンボ談話会例会	50

■実習室 平成14年度 15件

年月日	団体名	人数
14・5・12	竹筒のハチ	20
8・9	野尻湖花粉グループ	20
10・14	大阪鳥類研究グループ	20
11・10	竹筒のハチ	20
11・22～24	甲虫学会、鞘翅学会	20
12・1	双翅目談話会	20
12・21～23	野尻湖昆虫グループ	20
15・1・19	野尻湖友の会	20
2・2	ハチ研究会	20

年月日	団体名	人数
2・4	花粉形態学習会	20
2・9	ハムシ研究会	20
2・15	アサギマダラを調べる会	20
2・16	大阪湾海岸生物研究会	20
3・9	大阪鳥類研究会グループ	20
3・30	双翅目談話会総会	20

■講堂 平成14年度 33件

年月日	団体名	人数
4・5	大阪自然環境保全協会	200
4・7	大阪自然環境保全協会	230
4・13	大阪自然環境保全協会	260
4・27	大阪自然環境保全協会	260
5・10	大阪自然環境保全協会	150
5・11	大阪自然環境保全協会	260
5・25	大阪自然環境保全協会	260
6・7	大阪自然環境保全協会	150
6・8	大阪教育福祉専門学校	143
6・8	大阪自然環境保全協会	250
6・29	大阪自然環境保全協会	260
7・5	大阪自然環境保全協会	150
7・13	大阪自然環境保全協会	260
7・27	大阪自然環境保全協会	260
8・2	大阪自然環境保全協会	150
8・4	トンボ学会シンポジウム	100
8・24	大阪自然環境保全協会	250
9・6	大阪自然環境保全協会	150
9・8	日本自然科学写真協会	100
9・14	大阪自然環境保全協会	250
9・28	大阪自然環境保全協会	250
10・23	花と緑のまちづくり館	200
10・25	花と緑のまちづくり館	200
11・16	大阪府高等学校生物教育研究会	60
11・17	大阪シニア自然大学	250
12・7	花と緑のまちづくり館	150
12・18	京都女子中学校(総合学習)	211
15・2・8	朝鮮半島総合学術調査団シンポジウム	100
2・13	郡山北中学校(総合学習)	100
3・9	地球科学講演会	200
3・16	大阪シニア自然大学	200
3・21	大阪自然史センター	200
3・21～23	大阪自然史フェスティバル	250

庶 務

VII. 施 設

自然史博物館本館

- 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	
			(天井の高さ)
オリエンテーションホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第4展示室	100.00㎡	4.20m	
特別展示室	260.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第2収蔵庫	310.08	3.00m	
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m	
			(平均)
普及センター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	

実習室	96.76㎡	2.70m
(管理用施設)	計	907.49㎡
館長室	36.54㎡	2.70m
副館長室	18.27㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
更衣室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
オリエンテーションホールエレベーター	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
	総計	7,066.01㎡

■ 階数別面積

地階	855.07㎡	3階	550.95㎡
1階	3,178.35㎡	屋階	76.93㎡
2階	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講堂	266人	集会室	48人
会議室	22人	実習室	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階	3人		

■ 工期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円

庶 務

・ 本体工事 (㈱竹中工務店)	4億9,200万円
・ 付帯工事	3億 300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費) 1億5,000万円	
・ 第1展示室ディスプレイ (㈱日展)	2,200万円
・ 第2展示室ディスプレイ	
(㈱乃村工芸社)	2,500万円
・ 第3展示室ディスプレイ (㈱丹青社)	2,100万円
・ オリエンテーションホールディスプレイ	
(㈱電電広告)	600万円
・ 展示品購入費	3,200万円
・ 庁用器具、調査、研究用機器、	
資料保管用物品等	4,400万円
■ 国庫補助金・起債	
・ 国庫補助金 3,000万円 (47.10.13付交付決定)	
・ 起債 3億8,762万円 (47. 8.25付交付決定)	

(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報コーナー		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m
1階廊下		48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
プロムナード		28.00㎡	5.00m
2階便所		57.02㎡	2.50m
E V室		47.52㎡	2.90m
トラックヤード		88.13㎡	
階 段		103.18㎡	
	総計	5,000.00㎡	

花と緑と自然の情報センター

■ 所在地	大阪市東住吉区長居公園1番23号
■ 敷地面積	1,203.81㎡
■ 建築面積	3,507.00㎡
■ 延床面積	5,000.00㎡
■ 構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
	地下1階、地上2階塔屋付建物

■ 主要各室面積・天井の高さ			
(展示用施設)	計	1,403.763㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場(2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室(1)		36.80㎡	4.00m
前室(2)		16.20㎡	4.00m

■ 階数別面積

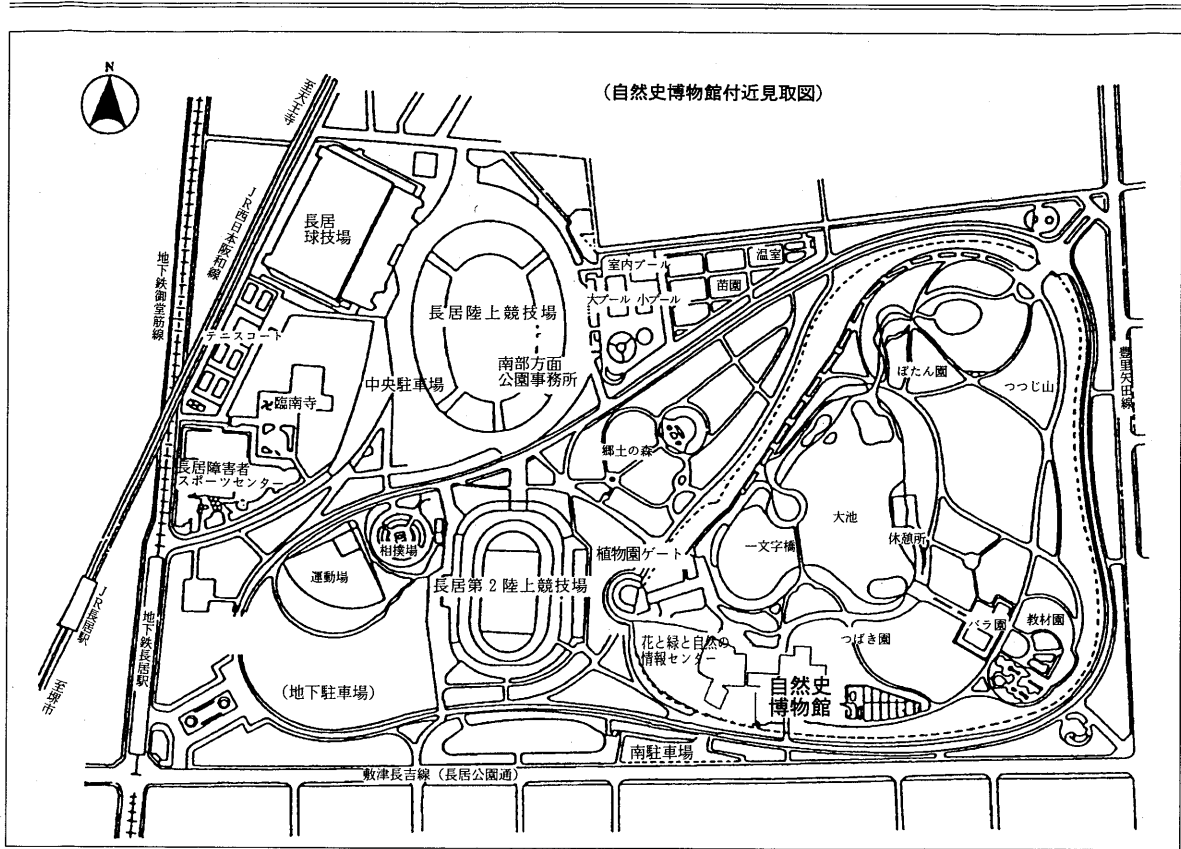
地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■ 工 期 平成10年12月～平成13年3月

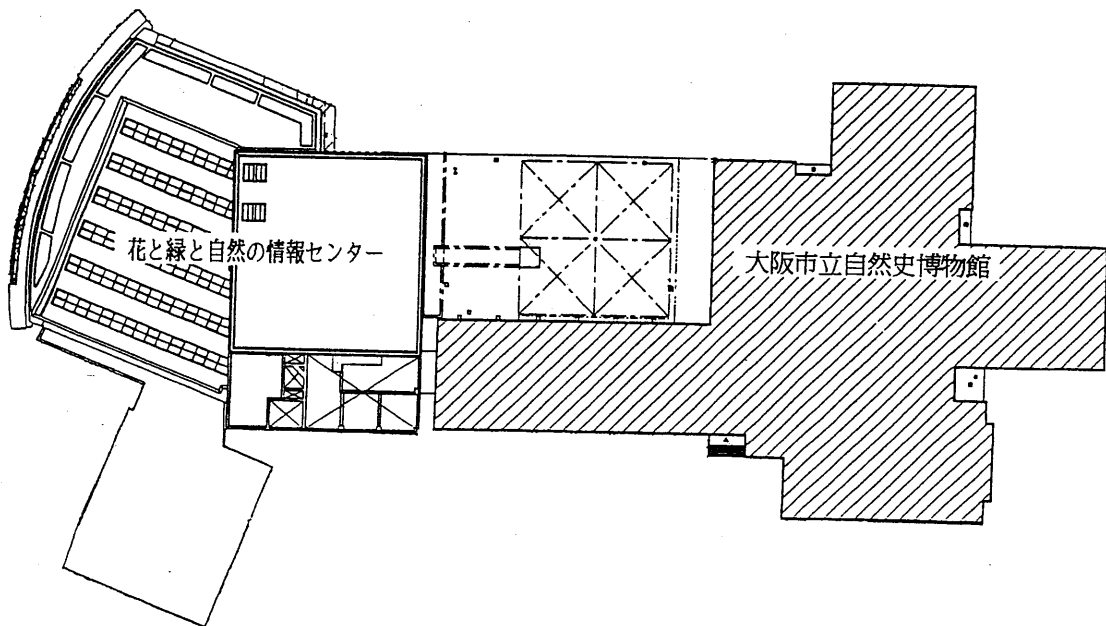
■ 総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

■ 起債等

・ 起債	34億7,477万3千円
・ 雑収(宝くじ協会)	3億6,001万7千円

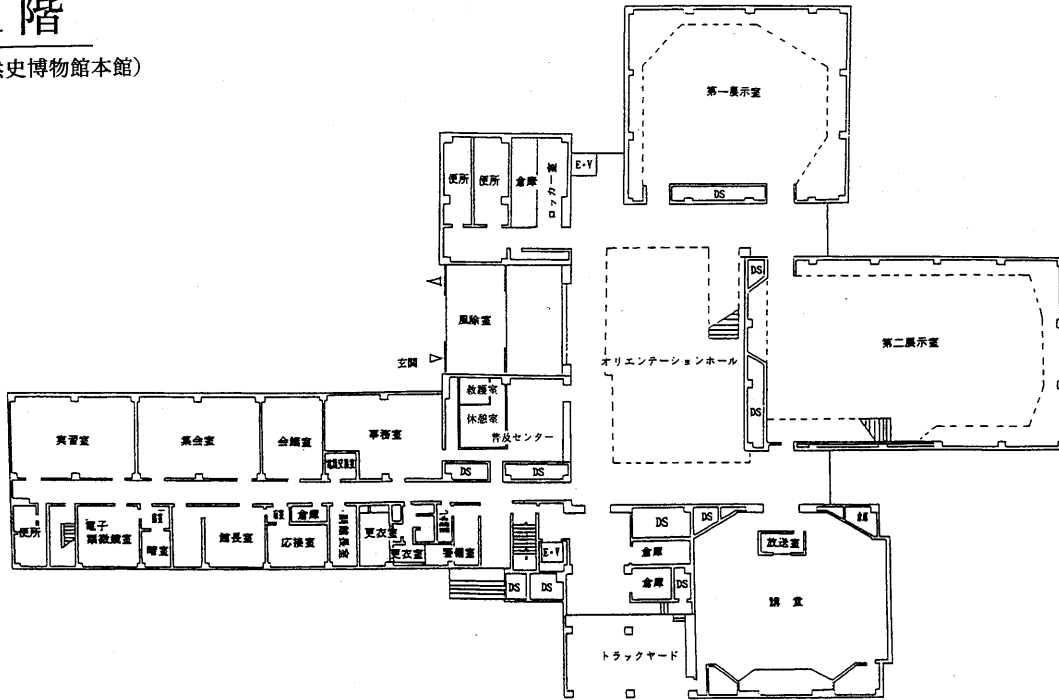


大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

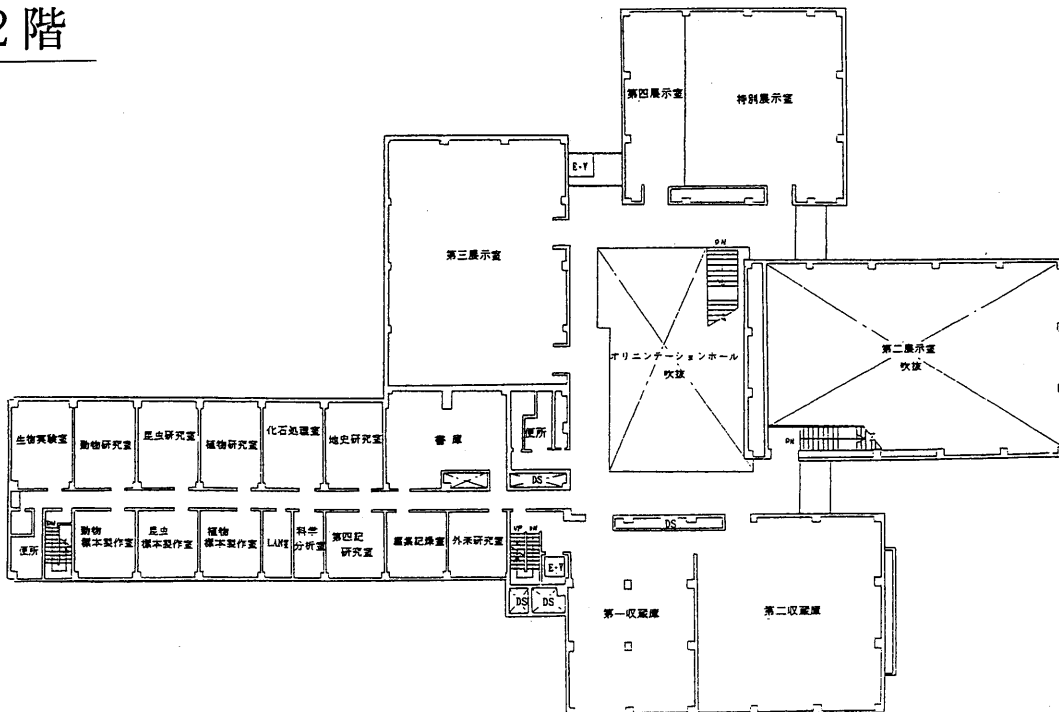


1階

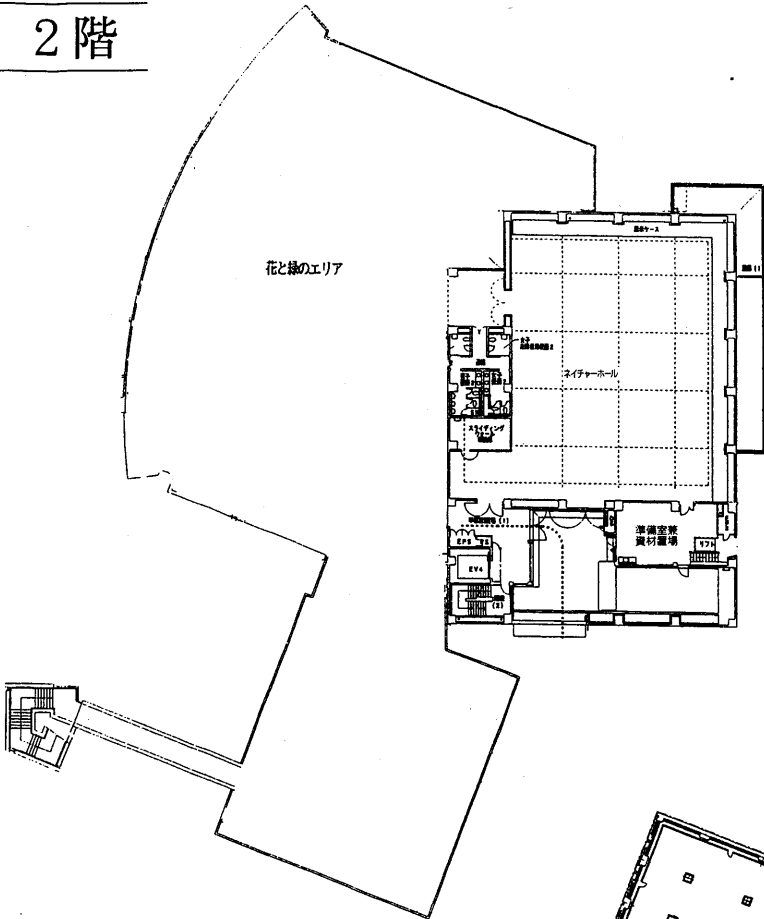
(自然史博物館本館)



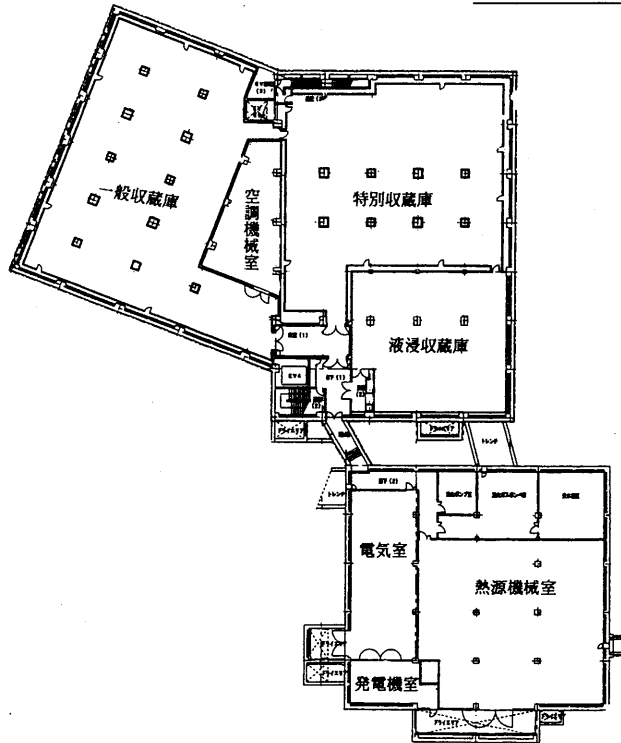
2階



2階



地下



○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1 条例39

最近改正 平13. 4. 1 条例62

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館条例

（設置）

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

第2条 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他の必要な事業

（観覧料）

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

第5条 自然史に関する科学についての展覧会、講演会、講習会その他に関し、博物館の特別展示室又は講堂を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき、次の各号に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会の定める額の使用料を前納しなければならない。

- (1) 特別展示室 32,000円
- (2) 講堂 17,000円

3 使用者が附属設備を使用しようとするときは、教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料の減免）

第6条 教育委員会が公益上その他必要と認めるときは、観覧料又は使用料を減免することがある。

（観覧料の還付）

第7条 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

（職員）

第8条 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

（施行の細目）

第9条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則（昭49. 4. 2 施行、告示120）

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則（昭51. 4. 1 条例61）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭55. 11. 27 条例48）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭56. 4. 1 条例53）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭61. 4. 1 条例50）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平4. 4. 1 条例58）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平7. 3. 16 条例40）

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則（平13. 4. 1 条例62、平13. 4. 27 施行、告示491）

この条例の施行期日は、市長が定める。

○ 大阪市立自然史博物館規則

制 定 昭49. 4. 26 (教) 規則12

最近改正 平13. 4. 27 (教) 規則20

大阪市立自然科学博物館規則 (昭和32年大阪市教育委員会規則第16号) を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館規則

(開館時間)

第1条 自然史博物館 (以下「博物館」という。) の開館時間は、午前9時30分から、午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律 (昭23年法律第178号) に規定する休日 (以下「休日」という。) にあたる場合は、その翌日。
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館の制限)

第3条 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他教育委員会が管理上支障があると認める者

(観覧)

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

(観覧料)

第5条 大阪市立自然史博物館条例 (昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。) 第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第4条3項の規定による観覧料は、1人1回につき、1,200円以内でその都度教育長が定める。

(使用許可の申請)

第6条 条例第5条第1項の規定により特別展示室又は講堂 (以下「施設」という。) の使用許可を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載してこれを教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名及び住所又は勤務先 (団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)
- (2) 使用の日時
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 特別の設備をしようとするときは、その内容
- (6) 入場者の予定人員
- (7) 入場料その他これに類する料金を徴収するときは、その金額
- (8) その他教育委員会が必要と認める事項

2 前項の規定により申請した事項を変更しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

3 第1項の申請書は、次に定める期間内に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 特別展示室の使用許可 使用期日の6月前の日から30日前まで
 - (2) 講堂の使用許可 使用期日の3月前の日から7日前まで
- (使用の制限)

第7条 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他教育委員会が不適当と認めるとき

2 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることがある。

- (1) 偽りその他不正の手段により条例第5条の許可を受けたとき
- (2) 前項各号に定める事由が発生したとき
- (3) 条例又はこの規則に違反し、条例又はこの規則に基

庶 務

づく指示に従わないとき

(使用料)

第8条 条例第5条第2項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

2 条例第5条第3項に規定する使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

第9条 観覧料又は使用料(以下「観覧料等」という。)の減免及び還付は、教育長が行う。

2 観覧料等の減額又は免除は、次の各号に定めるところによる。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料から次に掲げる額を減額することがある。

ア 30人以上 50人未満の団体 観覧料の1割

イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割

ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 常設展示場に入場する者が長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料から長居植物園の入場料相当額を免除する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除する。

(資料等の利用)

第10条 資料及び施設の利用については、教育長が定める。

(損害賠償)

第11条 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを現状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)

第12条 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)

第14条 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

(施行の細目)

第15条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則(昭51. 4. 1(教)規則15)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭56. 4. 1(教)規則17)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭61. 4. 1(教)規則10)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平元. 4. 1(教)規則9)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平4. 4. 1(教)規則24)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平5. 4. 1(教)規則3)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平7. 4. 1(教)規則18)

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

附 則(平13. 4. 27(教)規則20)

この規則は、公布の日から施行する。

別表第1(第8条関係)

区 分	使 用 料		
	午 前	午 後	全 日
特別展示室			32,000円
講 堂	7,000円	10,000円	17,000円

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」と

は午前9時30分から午後4時30分までとする。

別表第2（第8条関係）

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別 展示 室	冷房設備			16,000円
	暖房設備			16,000円
講 堂	冷房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1式 午前、午後各1回につき 1,800円		
	マイク	1式 午前、午後各1回につき 500円		
	ワイヤレス マイク	1式 午前、午後各1回につき 1,100円		
	テープレコーダー	1台 午前、午後各1回につき 900円		
	スライド映写機（スクリーン付）	1台 午前、午後各1回につき 1,300円		
	16ミリ映写機（スクリーン付）	1台 午前、午後各1回につき 4,200円		
	ビデオ装置	1式 午前、午後各1回につき 2,200円		

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする

○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平13. 4. 27

(趣旨)

第1条 この要綱は、大阪市立自然史博物館規則（昭和49年大阪市教育委員会規則第12号。以下「規則」という。）第9条第2項第3号の規定による観覧料及び使用料（以下「観覧料等」という。）の減額及び免除に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減額及び免除)

第2条 規則第9条第2項第3号による常設展示場及び特別展示室（以下「展示場」という。）の観覧料の減額及び免除は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 教職員が、盲学校、聾学校又は養護学校の高等部の生徒を引率して展示場に入場するときは、当該教職員及び生徒の観覧料を免除する。
- (2) 教職員が、幼稚園（これに準ずるものを含む。）、小学校（これに準ずるものを含む。）又は中学校（これに準ずるものを含む。）の園児、児童又は生徒を引率して展示場に入場するときは、当該教職員の観覧料を免除する。
- (3) 社会福祉施設（生活保護法（昭和25年法律第144号）第38条第1項、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条、老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第5条第1項又は知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第5条第1項に規定する施設をいう。以下同じ。）の職員が、入所者（社会福祉施設に入所している者をいう。以下同じ。）を引率して展示場に入場するときは、当該職員、入所者及び入所者に同伴する入場者で当該入所者の介護を行うものの観覧料を免除する。
- (4) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳、知的障害者（児）認定カード、戦傷病者手帳又は被爆者健康手帳（以下「身体障害者手帳等」という。）の交付を受けている者がこれを提示したときは、本人及び本人に同伴する入場者で本人の介護を行うものの観覧料を免除する。
- (5) 大阪市内に居住する者で65歳以上のものが、本市が発行したツルのマークの健康手帳又は敬老優待乗車証を提示したときは、観覧料を免除する。

2 前項第1項から第3項までの規定により観覧料の免除

を受けようとする者は、利用期日の当日までに第1号様式による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を教育長に提出しなければならない。

(使用料の減額及び免除)

第3条 規則第9条第2項第3号による特別展示室及び講堂並びに附属設備の使用料の減額及び免除は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 博物館が共催する行事で、学術振興又は普及教育に資すると認められるもの
- (2) 博物館の事業と関連を有する自然史に関する科学についての講演会、講習会その他で、学術振興に資すると認められるもの
- (3) 大阪市立自然史博物館友会の会が主催する行事
- (4) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習

2 前項各号の規定により使用料の免除を受けようとする者は、規則第6条第1項による申請書を提出するときに第2号様式による大阪市立自然史博物館使用料減免申請書を教育長に提出しなければならない。

(その他の減免)

第4条 前2条に定めるもののほか、教育長が公益上その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除することがある。

附 則

この要綱は、平成13年4月27日から施行する。

自然史博物館に団体入館の時に入口で渡してください

様式 1

自然史博物館 使用欄	
決裁	課長
主査	係員
障害者・中学生以下の学校団体等引率者用	
大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書 平成 年 月 日	
大阪市教育委員会教育長 様	
申請者 校 園 名 (団体名) 校園長名 所在地 電 話 次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。〔印不要〕	
目 的	
日 時	年 月 日 () 午前・午後 時 分から
引率責任者氏名	
引率者(減免)人数	名
生徒・園児・障害者・他人数(学年)	名
合計人数	名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第6条及び同規則第9条による。

様式 2

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 団体名
 代表者名
 住 所
 電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日 (曜日)	使用時間	午前 時 分～午後 時 分	参加人員	人
使用目的					
種 別	数 量				
	午 前	午 後	全 日		
講 堂					
付 属 設 備	冷 房 設 備				
	暖 房 設 備				
	拡 声 装 置				
	マ イ ク				
	ワイヤレスマイク				
	スライド映写機				
16ミリ映写機					
ビ デ オ 装 置					

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間

午前…午前9時30分～正午
 午後…午後1時～午後4時30分
 全日…午前9時30分～午後4時30分
 (準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます。)

自然史博物館 使用欄	
決裁	課長
主査	係員

○ 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館

制定 平成7年2月1日

改訂 平成13年4月1日

(目的)

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づき、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入れの規制)

2. 受入れの時期は夏期(7月～9月)・秋期(10月～11月)・冬期(12月～1月)の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間40名程度とする。ただし、一大学については各期あたり5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し(一般教養でも可)、その単位を取得している者に限る。

(実習の内容)

5. 実習の内容は、一般実習コース、普及教育専攻コースにわけて実施する。
 - ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。
 - ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。

(受入れの願書)

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受け付けない。

(受入れの諾否)

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または

学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

(補足)

受け入れ学生数は、一般実習コースは各15名、普及教育専攻コースは各5名程度とする。博物館実習生受入れ依頼の内諾伺文書については、当該年度の4月1日～30日の間に当博物館に到着するように郵送すること。なお内諾伺文書については、公印は必要としない。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に
関する運用方針について

制 定 昭51. 12.
改 正 昭54. 7.
最近改正 昭62. 12.

(目的)

- 1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。
ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

- 4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
 - (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
 - (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
 - (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
 - (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
 - (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。
- 6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	庶務課長	主 査	係 員
年 月 日			
	学芸課長	主任学芸員	学芸員

写真・テレビ撮影等許可願		平成 年 月 日
大阪市立自然史博物館長 様		
所 在 地		
会社・団体名		
代表者氏名印		
(担 当 者:)		
(電話番号:)		
次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださ るようお願いします。		
日 時	平成 年 月 日() 時 分～ 時 分	
目 的		
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(テレビの場合)	放映日時	
	番組名	
	タイトル	
(写真の場合)	掲載紙名	
	記事タイトル	
	著 者 名	
	発 行 者 名	
	発 行 年 月 日	

写真・テレビ撮影等許可書		平成 年 月 日
様		
大阪市立自然史博物館 館 長		
平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ 撮影許可願」について次のとおり許可します。		
日 時	平成 年 月 日() 時 分～ 時 分	
目 的		
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(許可条件)		
(1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展 示資料を損傷させないこと。		
(2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限 ること。		
(3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館 名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。		
(4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。		
(5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。		

○ 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館

制定 平成12年4月1日

第1条(目的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館(以下「当館」という。)の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条(定義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条(期間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条(手続き)

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員(利用し

ようとする標本又は設備を管理する学芸員)から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票(様式1)に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書(様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付)を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。(様式3)。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。(外来研究員については前年度2月15日)。

第5条(許諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条(経費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条(報告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条(成果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条(変更・中止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条(資格の取消し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式1

No. _____

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一次的な利用について、予め担当学委員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学委員に提出してください。

利用日	平成 年 月 日	
目的		
利用する設備・機器、 収蔵資料		
利 用 者	氏名	所属または住所
		電話番号
担当学委員名		

決 裁	館長	副館長	庶務課長	学芸課長	副学芸課長	保 保	学委員

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館館長 様

平成 年 月 日

(本人)

住 所 _____

電 話 _____

氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館館長 様

平成 年 月 日

(所属機関の長または指導教員)

所属機関 _____

所在地 _____

電 話 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研 究 者	所属部署(教室)、職名(学生)、電話番号
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	





ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2002

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

Issued: March 31, 2004.